

市町村名		沖縄市						
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-②	Kozaフィルムオフィス事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ		
担当部署名	経済文化部 文化観光課	事業実施(予定)年度	平成24～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 Ⅲ-1-(4)		
事業内容	伝統文化や景観など本市の地域資源を観光情報として発信し、誘客の拡大を図るため、魅力ある地域のロケ地情報の発信や撮影の誘致等を支援した。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	8,397					
		(b)予算現額	8,397					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)前年度繰越額	—					
		A.計(b+d)	8,397					
	B.執行済額		6,238					
	うち交付金充当額		4,990					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		74.3%					
予算の状況の説明		撮影誘致助成として2団体分の予算を計上し、ホームページ等で募集を行ったが、2件の問い合わせがあったものの、申し込みがなかった。また、コンテンツマーケットや映画祭へ県の事業と連携を図り合同参加しているものがあり、それらによる予算残分の減となっている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	①誘致活動 ②撮影支援 ③撮影誘致助成 ④撮影助成	目標	①誘致活動 ②撮影支援 ③2件 ④1件	()	()	()	()	
		実績	①実施 ②39件 ③0件 ④1件					
	⑤フィルムオフィスHPの構築 ⑥ロケ地マップ等の製作	目標	⑤HP作成 ⑥2,000部	()	()	()	()	
実績		⑤HP作成 ⑥ロケ地マップ 2,000部 ロケガイド2,000部						
況達説明状	撮影支援助成については、平成24年度は2件の問い合わせがあったが、エントリーがなかった。 撮影誘致助成については、平成24年度は、2010年に映画「やぎの冒険」の監督を行った市内在住の仲村颯悟氏脚本・監督による映画「ジョンの初恋」に対し助成を行った。 観光客等の誘客を図るため、ロケ地マップを2,000部作成している。 市内での撮影誘致の促進のため、撮影団体等業者へ向けのロケ地ガイドを2,000部作成している。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
	①誘致活動 ②撮影支援 ③撮影誘致助成 ④撮影助成 ⑤フィルムオフィスHPの構築 ⑥ロケ地マップ等の製作	目標	(—)	①実施 ②支援 ③2件 ④1件 ⑤HP構築 ⑥2,000部	()	()	()	()
		実績		①実施 ②39件 ③0件 ④1件 ⑤HP構築 ⑥各2,000部 ロケ地マップ・ガイド				
	況進説明状	平成24年度は公式ホームページの構築、ロケ地マップやロケ地ガイドの製作、専任の職員を配置することにより、計画的な撮影の支援、誘致を行うことが出来、平成24年度8月8日には沖縄市Kozaフィルムオフィスはジャパンフィルムコミッションより認定フィルムコミッションとして承認された。						

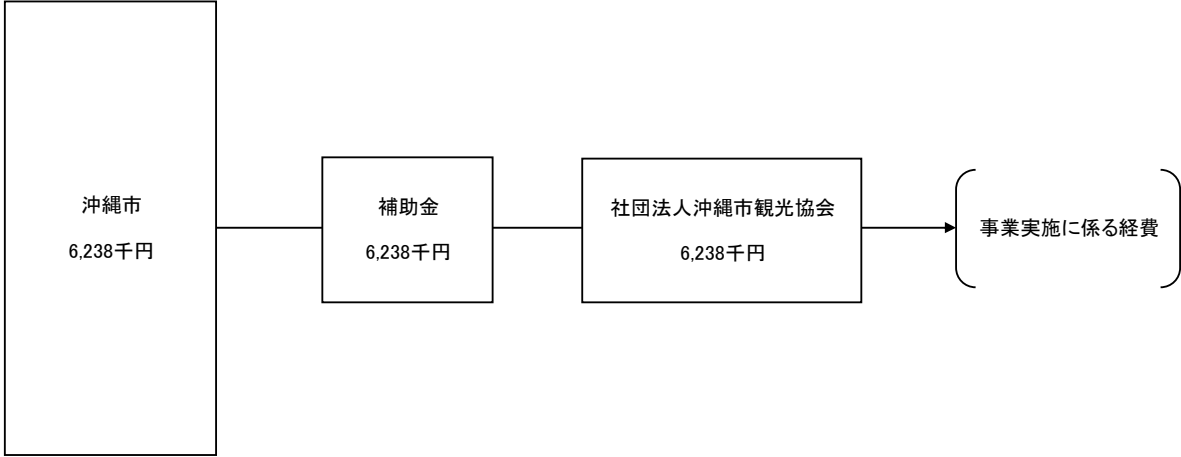
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	国内・海外から本市へ撮影を誘致するためには、本市の魅力的なロケーション等を発信できる映像コンテンツが必要である。	本事業で実施している「撮影誘致助成」、「撮影助成」により、本市の持つ伝統文化や景観などの魅力的なロケーション等を発信する事の出来る映像コンテンツ等の増を図り、各地で開かれるコンテンツマーケット等へも積極的に参加することにより、本市の地域資源を観光情報として発信し、誘客の拡大を図る。

今後の取り組み方針

引き続き、「撮影誘致助成」、「撮影助成」により、本市の持つ伝統文化や景観などの魅力的なロケーション等を発信する事の出来る映像コンテンツ等の増を図る。
 また、平成24年度よりジャパンフィルムコミッションより認定フィルムコミッションとして承認されたため、県内外の映像制作、撮影団体等からの本市への問い合わせの増加が考えられるため、引き続き支援を行い、本市のロケ地情報の発信や撮影の誘致等を促進する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,238	6,238	4,990	1,248	



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助団体は、本市において唯一のフィルムオフィス団体として、様々な支援活動を行っている団体であり、これまでの実績により、選定方法は妥当であると考えている。 ○本事業の経費は補助金と受益者負担により実施されており、費目、用途についても事業目的に即し真に必要なものであったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		沖縄市					
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	音楽資源収集事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 第5章-3-(2)-イ				
担当部署名	経済文化部 文化観光課	事業実施（予定）年度 平成24～25年度	中部圏域 III-1-(4)				
事業内容	音楽資源を活かした観光振興を図るため、沖縄民謡をはじめ戦後のアメリカ文化の影響によるロックやジャズなど多彩な本市の音楽・芸能資源の収集・整理、関係者への聞き取り調査、概要版映像を作成するなど、音楽資料の常設展示に向け取り組む。 平成24年度は沖縄民謡を中心に、写真、音源、映像、その他関連グッズの収集を行なった。また、沖縄市ゆかりのミュージシャンへ聞き取り調査を行ない、そのインタビュー映像や写真等の収集物を活用した展示会を開催した。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,370				
		(b) 予算現額	7,271				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 99				
		(d) 前年度繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	7,271				
	B. 執行済額		6,529				
	うち交付金充当額		5,223				
	次年度繰越額		0				
	執行率（%）(B/A)		89.8%				
予算の状況の説明		計画していた事業内容はすべて実施しており、活動目標の達成状況からみても適正だったと考える。					
活動目標（指標）及び達成状況	H24活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	音楽・芸能資源収集数	目標	(220点)	()	()	()	
		実績	1,566点				
	展示会の開催	目標	(1回以上)	()	()	()	
		実績	2回				
達成状況説明	沖縄民謡を中心に、本市にゆかりのあるミュージシャンの写真、映像、音源（レコード・カセット・CD・有線ラジオ番組）、新聞記事、ポスターを収集した。収集物の内訳は、写真201点、映像29点、レコード872点、カセット138点、CD223点、有線ラジオ番組8点、新聞記事89点、ポスター6点、合計1,566点。また、収集した音楽芸能資源を活用し、平成24年10月及び25年1月に展示会を開催した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H24成果目標（指標）		基準値 (23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	音楽・芸能資源収集数	目標	(0)	(220点)	()	()	()
		実績		1,566点			
	展示会の開催	目標	()	(1回以上)	()	()	()
		実績		2回			
	進捗状況説明	平成24年度目標収集数は220点だったが、沖縄市ゆかりのミュージシャンの音源（カセット及びCD）については、沖縄民謡に限らず広く収集した結果、音源の収集数が見込みを大幅に上回り、合計1,566点の音楽・芸能資源が収集できた。また、収集物を活用した2回の展示会においては、合わせて約2,300人の来場者があり、地域の活性化につながった。					

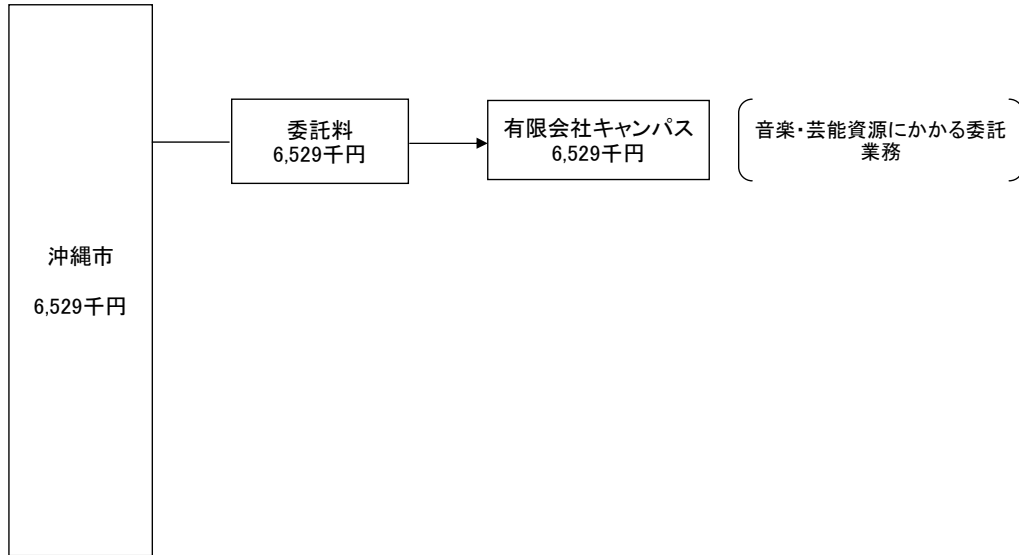
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 写真や映像・音源等の資源は、写真家、テレビ局、レコード店からの収集を主としていたが、一般の方やコレクター等から収集する場合は、その人物の特定や資源の点数を把握することが難しい。 平成24年度は2回の展示会を開催したが、来場者からは「もっと展示会を開いて収集物を公開してほしい」等の声が多くあがっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報おきなわ等を活用し、音楽資源収集事業の周知に努め、一般家庭やコレクターからも広く資源を収集していく。 収集した音楽・芸能資源を広く公開する方法として、既存の音楽イベント等と連携した企画展示会の開催を検討し、常設展示に向けた取り組みにつなげていく。

今後の取り組み方針

・音楽・芸能資源収集点数については、写真300点、音源300点、映像10点、その他関連グッズ等を含め、合計650点を目標とし、事業の周知に努めて広く資源を収集する。
 ・収集した音楽・芸能資源を整理し、音楽イベントと連携した展示会を開催する等、音楽資源を活かした観光誘客や地域の活性化を図っていく。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,529	6,529	5,223	1,306	0



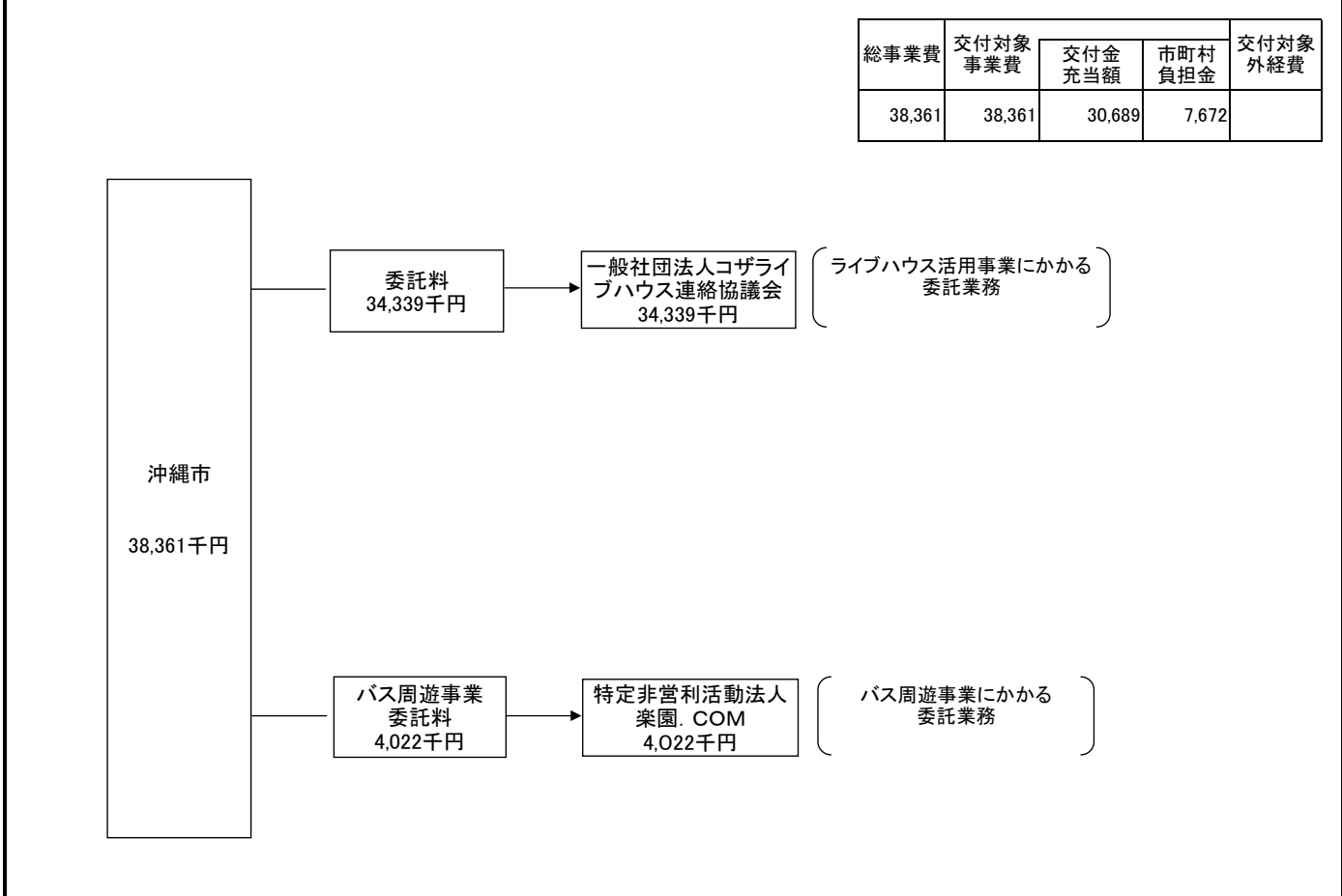
資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 委託事業者は公募型プロポーザル方式により、事業遂行に必要な音楽芸能文化に関する専門的知識等を勧業した上で選定しており、妥当だったと考えている。 費目使途については、事業達成のために必要なものに限られていることを、支出に関する書類にて確認している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限られているか。	

市町村名	沖縄市						
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	音楽観光誘客事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(2)-イ	
担当部署名	経済文化部 文化観光課	事業実施(予定)年度	平成24～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	中部圏域	
事業内容	本市の音楽資源を活かした観光を振興するため、観光産業や音楽産業との連携により、観光ホテルと中心市街地を結ぶバス周遊等を実施するとともに、観光資源であるライブハウスなどにおける定期イベントを開催した。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	47,245				
		(b) 予算現額	46,289				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 956				
		(d) 前年度繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	46,289				
	B. 執行済額		38,361				
	うち交付金充当額		30,689				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		82.9%				
予算の状況の説明		音楽観光誘客事業については、①ライブハウス活用事業と②バス周遊事業の2事業となっている。ライブハウス活用事業については、当初の計画通り実施されており、成果目標も達成しており適正であったと考えるが、バス周遊事業については、ホテルからの観光客誘客について厳しいものがあった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	平日ライブの開催	目標	(240回)	()	()	()	
		実績	219回				
	ライブハウスサーキットの開催 ※周遊型企画ライブ	目標	(36回)	()	()	()	
		実績	40回				
達成状況説明	週末のみの営業店舗が増えていたライブハウスの状況を打開し、いつでも市内のどこかでライブ演奏が聴ける環境を創出するため、平日ライブを219回、ライブハウス間を周遊できる企画型イベントのライブハウスサーキットを40回開催した。当初予定していた契約期間が平成25年3月31日より3月15日へと変更となったため、平日ライブの実績については目標数値を下回っている。(平成25年3月15日以降の市実施事業分の実績を加えると、平日ライブが244回、ライブハウスサーキットが43回となる。)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	ライブハウス入場者数	目標		(7,200人)	()	()	()
		実績		(8,319人)			
	ライブハウス集客率	目標		(60%)	()	()	()
		実績		(64.1%)			
	進捗状況説明	県外の音楽事務所や大手ライブハウス等と連携したツアーの実施や、ライブの回数が増えたことによる音楽のまちとしての知名度向上等により、ライブハウスの入場者数、集客率ともに目標数値を上回っている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>(ア)集客率、入場者数とも目標数値を上回ることができたが、各個店の自助努力に負うところが大きかった。</p> <p>(イ)観光客誘客を目的に近隣4ホテルからのバス運行事業を行ったが、集客については、厳しいものがあつた。その原因として、バスの運行台数が1台であつたことにより利用者にとって利便性のある運行スケジュールが組めなかつたこと、旅行日程を事前に決めてある観光客が多いこと、沖縄観光の閑散時期であり、修学旅行や添乗員同行のツアーが多い時期であつたこと、バス降車後の誘導者不在による利用者の不安感などが挙げられる。</p> <p>(ウ)観光誘客事業としてスタートしたが、地元客が行かない場所は観光商品として成り立ちにくいことから、地元向けの広報・宣伝も必要である。</p> <p>(エ)店舗、ミュージシャンも一体となった広報・宣伝の必要性。</p> <p>(オ)ライブハウスの自立運営に向け、本事業終了後のビジョンも見据えた取り組み。</p> <p>(カ)参加希望店舗の増加。</p>	<p>○ライブハウスへの更なる集客に向けた観光客誘客の新たな取り組み。</p> <p>○地元客誘客に向けた取り組み。</p> <p>○ライブハウスを活用した、観光商品の創出。</p> <p>○広報プランの見直し</p> <p>○各個店への事業目的確認の徹底。</p>

今後の取り組み方針
<p>○バス事業に代わるホテルからの誘客については、タクシー補助を実証実験的に行う。</p> <p>○具体的な数値目標を設定し、各ライブハウス個店の集客努力を促す。(全体目標:集客率:60%→70% 集客数:11,770人 メール会員の獲得1,000名以上)</p> <p>○将来的なライブハウス自立も視野に、本事業によるライブ実施回数が月に2回以上ある場合、店舗による自主ライブを1回以上行う。</p> <p>○県外客向けの旅行商品開発と平成24年度に創出された地元宿泊プランの継続。</p> <p>○集客という成果の創出を最大の目的として、事業実施店舗を決定していく。</p>

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は公募型プロポーザルにより決定しており、妥当である。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から事業設計時及び精算時に確認しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	沖縄市						
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	外国人誘客推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(2)-イ	
担当部署名	経済文化部 文化観光課	事業実施（予定）年度	平成24～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	中部圏域	
事業内容	アジア地域からアーティスト及びマスメディアを招聘し、本市発祥のオキナワンロック等を中心とした多彩な音楽イベントへの誘客を目指すため、それらを実施する団体に支援を行った。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,761				
		(b) 予算現額	4,950				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,811				
		(d) 前年度繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	4,950				
	B. 執行済額		4,950				
	うち交付金充当額		3,960				
	次年度繰越額		0				
	執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初予定していたアメリカンフードフェスティバル及びピースフルラブ・ロックフェスティバルの際の韓国マスメディアの招聘は、7月7日、8日の当日に間に合わなかったため、事業執行出来なかった分が予算残となった。					
活動目標（指標）及び達成状況	H24活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	アジア地域からのミュージシャン招聘	目標	(2組)	()	()	()	
		実績	2組				
	アジア地域からのマスメディア招聘	目標	(2国)	()	()	()	
		実績	1国				
達成状況説明	アジア地域からのミュージシャン招聘については、目標に掲げたとおり、台湾・韓国から2組のアーティストの招聘を行う事が出来た。マスメディアの招聘については、台湾・韓国からのマスメディア招聘を予定しており、台湾については、予定通り招聘を行う事が出来た。一方、韓国マスメディアについては、7月7日、8日の当日に間に合わなかった。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	ピースフルラブ・ロックフェスティバル来場者数	目標	(2800人)	(3300人)	()	()	()
		実績		3800人			
	【参考指標】		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	平成23年度を基に成果目標の指標を入場者数3,300名に設定したが、実際の入場者数は3,800名と効果が見られた。今年度は、2組の外国人アーティストを招聘した事で例年になく外国人の来場者数の増を確認することが出来た。また、インターネットでの問い合わせやツイッターでのフォロー、公式HPへのアクセスは最大で1日1,000件を超える事もあったことから、宣伝効果には一定の成果が得られた。					

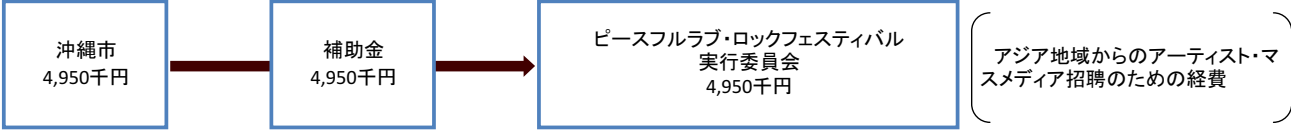
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>以前は、毎年2日間で3,000名以上の集客が見込めるイベントであった、ピースフルラブ・ロックフェスティバルも、社会情勢の変化により、ここ数年は、3,000名を切る状況である。</p> <p>韓国、台湾から2組のアーティストを招聘し、アジア地域へのPR・誘客を目指した。また、メディアを通してイベントをPRする事で、インターネットでの問い合わせ及びツイッターでのフォロー、公式HPへのアクセスは最大で1日1,000件を超える事もあったことから、一定の宣伝効果はあったと考えている。</p>	<p>海外からのアーティストを招聘し、ある程度の成果を見る事が出来たが、海外でのピースフルラブ・ロックフェスティバルの周知及び海外からの誘客拡大を図るため、観光PRを強化していく必要がある。</p>

今後の取り組み方針

平成24年度同様、アジア地域からの「アーティスト」並びに「マスメディア」の招聘を行う。同時に、フェスティバル開催前に本フェスティバル出演者をアジアに派遣し、プロモーションライブを実施し、本フェスティバルの告知を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
4,950	4,950	3,960	990	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	音楽を通じた誘客拡大を図るためには、本市最大の音楽イベントであるピースフルラブ・ロックフェスティバルが有効であった。 そのため補助先については、ピースフルラブ・ロックフェスティバルを運営する実行委員会に対して行い妥当であった。 本事業は、補助金と受益者負担により実施されており、負担関係は妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	沖縄市						
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	市民小劇場あしびなー改修事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
担当部署名	経済文化部 文化観光課	事業実施(予定)年度	平成24～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な観光ブランドの確立		
事業内容	音楽や文化による観光を推進するため、その拠点施設のひとつである市民小劇場あしびなーの機能強化(ワイヤレスマイクシステム更新)に取り組んだ。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位：千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	(a) 当初予算額	12,660					
	(b) 予算現額	6,363					
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 6,297					
	(d) 前年度繰越額	—					
	A. 計 (b+d)	6,363					
	B. 執行済額	6,363					
	うち交付金充当額	5,090					
	次年度繰越額	0					
	執行率 (%) (B/A)	100.0%					
予算の状況の説明	予算額については業者見積額にて計上、執行は物価単価調査を行い実勢価格を把握したうえで、指名競争入札にて実施。上記増減額(執行残額)については補正減としたが、計画していた事業内容は全て実施しているため、適正であったと考える。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況					
		24年度	25年度	26年度	27年度		
	市民小劇場あしびなーの設備(備品)の購入	目標	(1件)	()	()	()	
		実績	1件				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	市民小劇場あしびなーの音響設備充実の為のワイヤレスマイクシステム(10派対応)購入(アクティブ指向性アンテナ、アンテナプースター、UHFアンテナディバイダー、受信機、ハンドベルト型送信機、交換用マイクヘッド、ミュースイッチユニット、ボディパック型送信機、ラベリアマイクロホン)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
	市民小劇場あしびなーの設備(備品)の購入	目標	()	(1件)	()	()	()
		実績		1件			
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	ワイヤレスマイクシステムの更新により、市民小劇場あしびなーの音響設備の機能強化を図ることができた。					

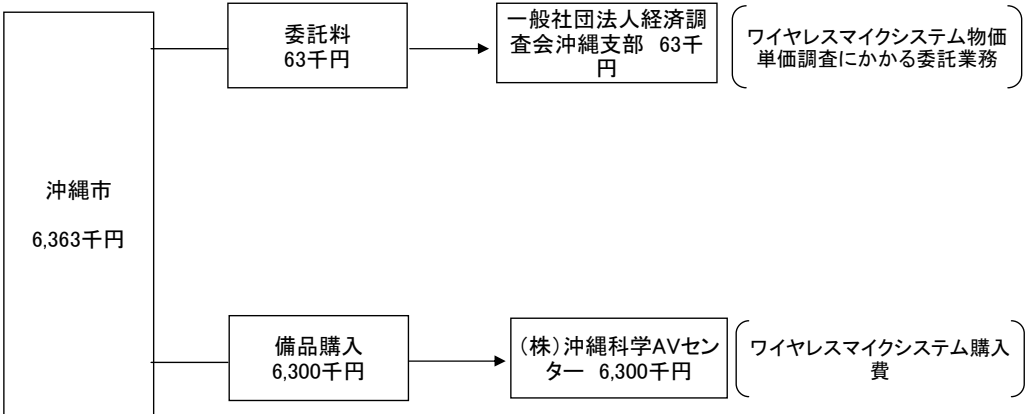
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	音楽や文化による観光の推進や市民の文化活動推進のために舞台関係設備等に求められるニーズの把握	施設設備に関する改善、機能強化等に関し、関連団体等からの情報収集

今後の取り組み方針

文化・観光の更なる振興を見込んだ催事の充実の為、文化拠点施設としての機能強化につながるのに必要な設備を充実を図る。実施にあたっては適正価格把握の為、物価単価調査を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,363	6,363	5,090	1,273	



資金の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・購入費については指名競争入札により実施しており支出先の選定は妥当であったと考える。また、その費用の検討にあたっては価格調査を加味して設計価格を作成した。 ・価格調査委託料及び備品購入費に限定しており、事業実施の必要額となっている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		沖縄市					
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦	(仮称)国際交流センター事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-イ	
担当部署名	経済文化部 文化観光課	事業実施(予定)年度	平成24～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界と共生する社会の形成 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	語学力や異文化理解能力の向上を目的に、多様な国籍の住民等が交流できる国際交流の拠点(コザインターナショナルプラザ)を設置し、各種語学講座や異文化理解講座を行った。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	16,936				
		(b)予算現額	13,231				
		(c)増減額(b-a)	▲ 3,705				
		(d)前年度繰越額	—				
		A. 計(b+d)	13,231				
	B. 執行済額		8,892				
	うち交付金充当額		7,113				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		67.2%				
予算の状況の説明		施設の開所が当初予定より1か月程遅れたことによる人件費や光熱水費等の不用額や、法律専門相談員の活用を見込んでいた予算等について活用がなく残額が生じたが、運営期間に応じた執行として適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	(仮称)国際交流センター(コザインターナショナルプラザ)の設置	目標	(コザインターナショナルプラザ設置)	()	()	()	()
		実績	コザインターナショナルプラザ設置				
	多言語講座、多言語相談、多言語情報センターの設置	目標	(講座、相談、情報センター設置)	()	()	()	()
		実績	講座、相談、情報センター設置				
達成状況説明	沖縄市中心市街地内において、国際交流の拠点施設となるコザインターナショナルプラザを開設し、多言語(英語、中国語、スペイン語)初級講座や、同じく3か国語に対応できる相談業務を実施。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	多言語講座受講者数	目標	()	(延べ600人)	()	()	()
		実績		延べ662人			
	相談件数	目標	()	(延べ20人)	()	()	()
		実績		延べ23人			
	進捗状況説明	沖縄市中心市街地内において、国際交流の拠点となるコザインターナショナルプラザを開設し、初年度の来所総数は、延べ1,375人であった。そのうち、多言語講座の受講者数が662人(英語:228人、中国語:217人、スペイン語:217人)、外国人市民に対する生活相談者が23人(英語:11人、中国語:9人、スペイン語:3人)となっている。いずれも目標を上回った。					

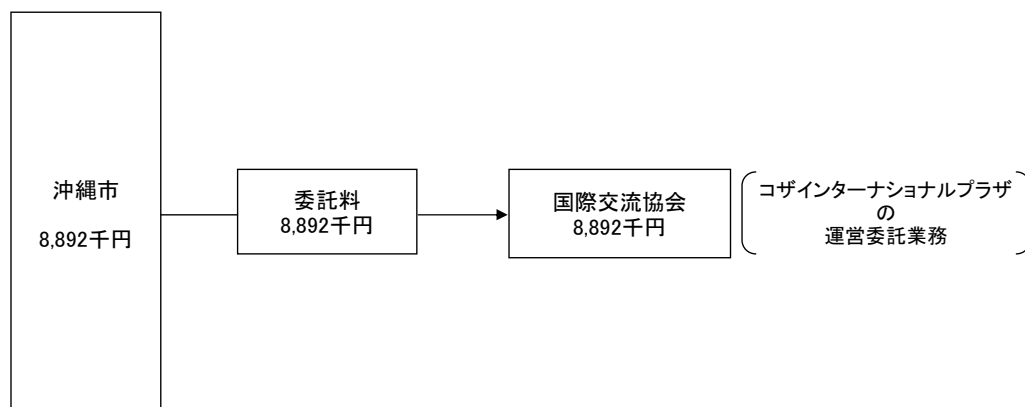
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・外国語講座等については、ある程度受講者を確保して運営できているが、施設の運営初年度ということもあり、まだまだ外国人市民の来所割合が少ない現状がある。(約1割程度) 外国人市民にとっても利用しやすい施設を目指し、国際交流の拠点となるような取り組みが必要と思われる。</p>	<p>・外国人市民への周知を図り、利用促進に努める。 生活相談業務については、専門法律相談員を活用できる体制も整えており、施設の内容を広く周知する必要がある。また、語学講座は、これまで日本人市民向けの外国語講座のみとなっており、外国人市民向けの日本語講座の開設を行うことで、外国人市民の利用促進及び多国籍の市民が集う国際交流の場としての充実につなげたい。</p>

今後の取り組み方針

・取り組み内容を広報するなど外国人市民へ広く周知し、外国人市民向けの日本語講座等の実施により、多くの外国人市民に利用してもらうことで、多様な国籍の住民等が交流できる拠点として、コザインターナショナルプラザを運営する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
8,892	8,892	7,113	1,779	



資金の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・委託事業者は公募型プロポーザル方式により庁内選定委員会により選定しており妥当であると考えている。 ・施設のオープン初年度ということもあり、人件費等をはじめ当初見込んでいた予算規模より減額が生じている。ただし、費目・用途は運営に必要な経費に限定されている。</p>
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	沖縄市						
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑨	エイサーサイン整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア	
担当部課名	建設部 下水道課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	文化産業の戦略的な創出・育成 Ⅲ-1-(4)	
事業内容	本市は「コザらしい生活ができるまち～商店街から交流街へ～」を活性化のテーマに、音楽・芸能など、豊富な地域資源を積極的に活用し、商店街の活性化をはじめ、住環境と都市機能の向上により、暮らしやすく、にぎわいのあるまちづくりを目指している。 エイサーの絵柄を取り入れた下水道マンホール蓋を設置することで、エイサーを活用した観光振興や地域活性化へと波及することを目的とする。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	15,000				
		(b) 予算現額	15,000				
		(c) 増減額 (b-a)	0				
		(d) 前年度繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	15,000				
	B. 執行済額		15,000				
	うち交付金充当額		12,000				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		予算を全額執行したが、積算歩掛け、単価見積等の変動があり、整備できる個数が当初予定の数量より減となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	下水道マンホール鉄蓋取替え	目標	(100基)	()	()	()	
		実績	91基				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	工事の設計書作成に際し、毎年発行される積算歩掛け、単価見積等により、整備できる個数に増減ができるため。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	下水道のマンホール鉄蓋の取替え	目標	(0基)	(100基)	()	()	()
		実績		91基			
	【参考指標】		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	工事の設計書作成に際し、毎年発行される積算歩掛け、単価見積等により、整備できる個数に増減ができるため。					

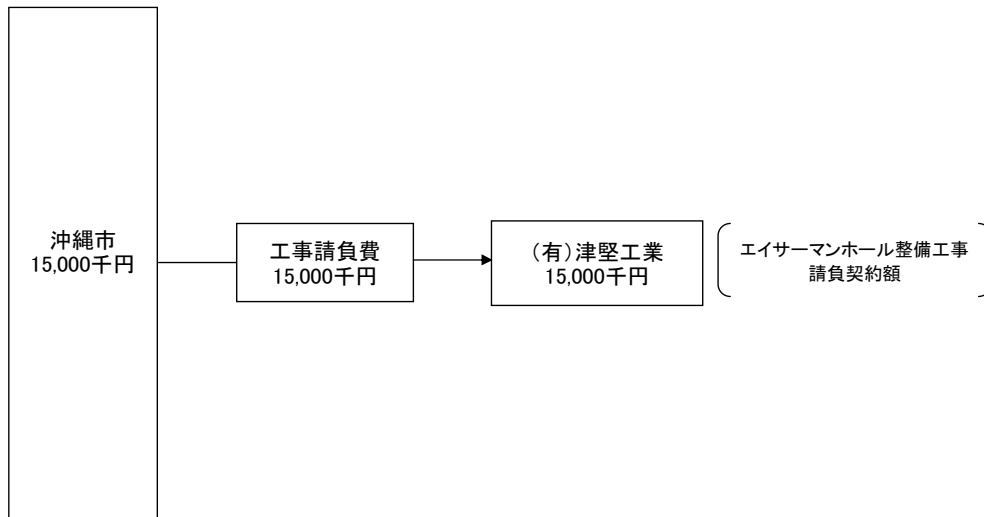
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>中心市街地の下水道整備年度は古く、近年下水道マンホール鉄蓋として一般的な規格(φ600・φ500)以外のマンホールが多く存在する。エイサーマンホール鉄蓋を製作するに当たり、鑄型が必要になるため、φ600とφ500から整備を進めている。そのため、エイサーマンホールが飛び飛びになっている状況である。</p>	<p>φ600及びφ500の整備を進め、今後は、他規格の製作も推進していく。</p>

今後の取り組み方針

エイサーマンホールを整備することで、他事業と一体となって街中にエイサーの雰囲気醸し出し、中心市街地のにぎわい創出を目指す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
15,000	15,000	12,000	3,000	0



資金の流 れ、費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○工事請負業者は指名競争入札にて決定しており、支出先の選定方法は妥当であったと考える。 ○工事費の積算については積算歩掛け、単価見積等により適正に行っている。 ○費目・用途については、工事完了後に支出等に関する書類により確認し、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	沖縄市						
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑩	伝統文化観光推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア	
担当部署名	経済文化部 文化観光課	事業実施(予定)年度	平成24～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 Ⅲ-1-(4)	
事業内容	伝統文化の継承発展と観光誘客の拡大を図るため、本市の伝統工芸である知花織を活用し、伝統文化であった「ンマハラサー(美ら競馬)」の復活への支援を行った。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	26,940				
		(b) 予算現額	26,940				
		(c) 増減額 (b-a)	0				
		(d) 前年度繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	26,940				
	B. 執行済額		25,950				
	うち交付金充当額		20,759				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		96.3%				
予算の状況の説明		当初予定していた知花織の製作及びンマハラサーの実施など計画通り執行出来た。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	ンマハラサーの実施	目標	(2回)	()	()	()	
		実績	2回				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	伝統工芸である知花織の継承と共に、伝統文化であるンマハラサーの復活を目指して、年2回のンマハラサー大会を目標に掲げた。実際に2回のンマハラサー大会を開催し、当初の目標を達成する事が出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	伝統文化であるンマハラサーの復活	目標	(無)	(イベント開催)	()	()	()
		実績		イベント開催			
	【参考指標】		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	ンマハラサー大会を実施することで、伝統文化を復活させる事が出来た。また、当園の入場者数も2日間で約5,600名と例年の平均約3,800名を上回った。					

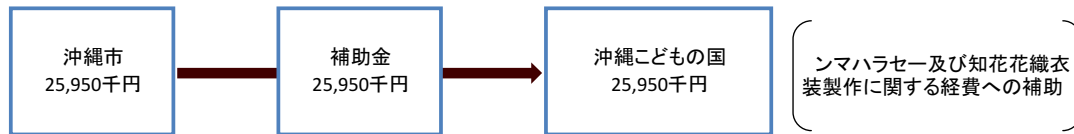
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	文化行事は一度消失すると復活させることが難しく、継続実施していかなければ、消失しやすいのが現状である。 ンマハラサーについては、実際に復活はしたが、県民及び観光客への周知が万全だったとは言えない状況である。	今後は、年2回の回数だけでなく、開催回数増なども検討していかなければならない。また、観光資源として誘客拡大に繋げていくため、こどもの国内でのンマハラサーの紹介及びHP、新聞等のマスメディアを活用したPRに力を入れる必要がある。

今後の取り組み方針

今後は、これまでのンマハラサーの開催回数増と共に、別で来場者への紹介用の小規模のンマハラサーを実施していく。
また、HP、新聞等を活用してンマハラサーの継承及び市のPRに力を入れ、誘客拡大及び地域活性化に繋げていきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
25,950	25,950	20,759	5,191	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	動物及び伝統工芸を活用した観光誘客を図るため、補助先に沖縄県中南部唯一の動物園である沖縄こどもの国を選定したことは、上記の目的を勘案して妥当であったと考えている。 また、資金の用途についても、国の伝統工芸に指定された知花花織とコラボレーションを行うなど、妥当であったと考えている。 本事業は、補助金と受益者負担により実施されており、負担関係は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		沖縄市					
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①		文化財整備等事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア	
	担当部署名	教育部 沖縄市立郷土博物館		事業実施(予定)年度	平成24～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-1-(1)
事業内容	市指定文化財の「奉安殿」や「忠魂碑」は、県内においても貴重な文化財である。沖縄戦の歴史を語り継ぐ貴重な資料として保存・活用するため、経年劣化による損傷を修復する取り組みをおこなった。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）	予算の状況	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
		(a) 当初予算額	5,060				
	(b) 予算現額	4,945					
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 115					
	(d) 前年度繰越額	—					
	A. 計 (b+d)	4,945					
	B. 執行済額	4,945					
	うち交付金充当額	3,956					
	次年度繰越額	0					
	執行率 (%) (B/A)	100.0%					
予算の状況の説明	補正減額があったが、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況					
		24年度	25年度	26年度	27年度		
	奉安殿及び忠魂碑の修復等設計業務の実施	目標	(設計業務の実施)	()	()	()	
		実績	設計業務の実施				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	奉安殿及び忠魂碑の修復等にかかる設計業務の実施を達成できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
			(0)	(1)	()	()	()
	奉安殿及び忠魂碑の修復等設計業務の実施	実績		1			
		【参考指標】					
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	奉安殿及び忠魂碑の修復等にかかる設計業務の実施し、復元整備に向け、取り組みを拡大していくことが可能となった。						

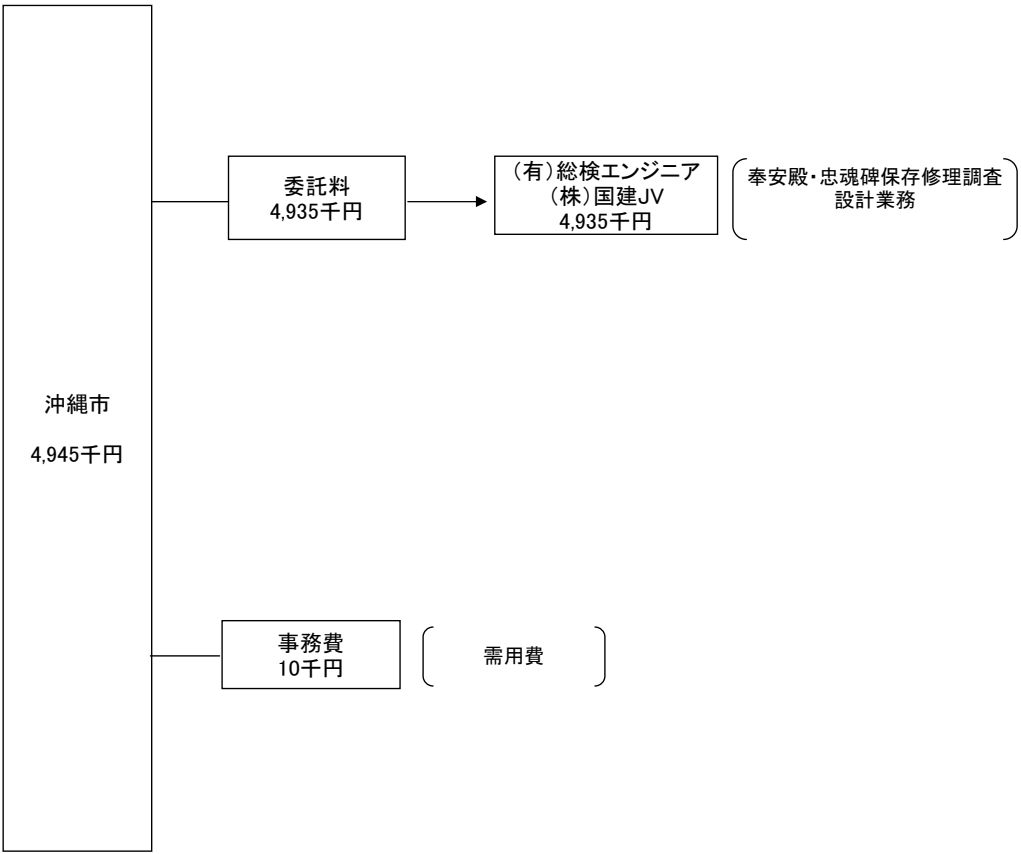
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	劣化した文化財を保存修理する事で、実物資料を用いた郷土学習などに活用できる。そのためには、本整備事業をとおして推進する必要がある、事業の取り組みとして妥当であると考えている。取り組み方としては、文化財としての価値を存続させつつ、傷んだ部分の保存修理を実施したが、その上で、奉安殿の扉や内装などについて、より多くの情報を収集する必要があることが判明した。	今後、古写真収集や聞き取りを行う事で、奉安殿の扉や内装などの復元整備に向け、取り組みを拡大していく。

今後の取り組み方針

今後については、奉安殿の扉や内装などの情報収集を継続しつつ、保存修理工事を実施していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,945	4,945	3,956	989	0



資金の流 れ、費目・ 点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者の選定については、沖縄市内業者と市外業者からなるJVによる指名競争入札により実施、市内業者の育成に努めた。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から適正であるか、額の確定時に支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	沖繩市						
平成24年度沖繩振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-13	地域自然環境調査事業			沖繩21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-ア	
担当部署名	教育部 沖繩市立郷土博物館	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖繩振興基本方針該当箇所	自然環境の保全・再生・適正利用 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	<p>嘉手納弾薬庫等により市域が分断され貴重な自然環境資源が現存する「嶽山原」地域および本市北部地域の自然環境実態を把握するため、植生概観と動物概観に関する調査を行う。</p> <p>①生物調査(平成24年度) 市内の生物調査及び標本等の作製</p>						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	0				
		(b)予算現額	9,769				
		(c)増減額(b-a)	9,769				
		(d)前年度繰越額	—				
		A.計(b+d)	9,769				
	B.執行済額		9,255				
	うち交付金充当額		7,404				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		94.7%				
予算の状況の説明		執行残があったが、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	嶽山原地域調査の実施	目標	(1)	()	()	()	
		実績	1				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	本市北部地域の嶽山原において地域調査を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	嶽山原地域調査の実施	目標	()	(1)	()	()	()
		実績		1			
	【参考指標】		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	11月～3月の嶽山原調査の委託業務を実施し、先行して収集した甲殻類標本の作製と合わせ、企画展を実施することが可能となった。					

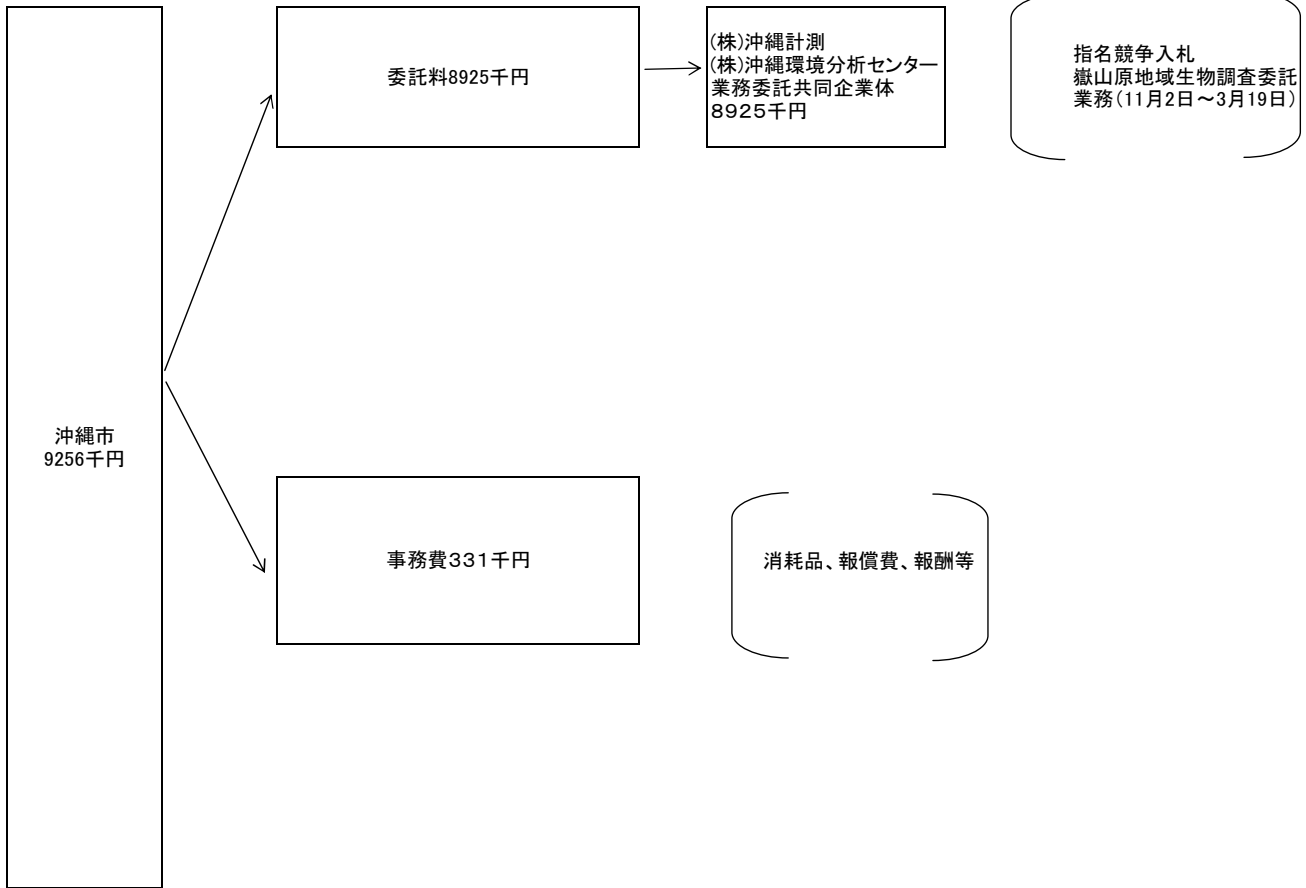
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	初年度は契約の性質上、年度当初より調査を開始することができなかった。調査結果を活用するための専門的な知識を有する人材の確保が難しい。	一年を通して調査が実施できるよう予算の執行方法を検討する。専門的な知識を有する人材確保について県外の博物館関係者と連携する。

今後の取り組み方針

平成26年度では予算の執行法の見直しなどにより年間を通した調査を完了させたい。また、人材確保については県内での確保が難しいため、県外から確保していく予定である。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
9,255	9,255	7,404	1,851	0



資金の流 れ、費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託業者はJV方式で指名競争入札であった。費目や用途については、事業目的達成のために限定されており、適当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		沖縄市					
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	観光地周辺道路整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部署名	建設部 道路課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	観光施設の利便性向上に向け、アクセス道路における道路施設や歩道および街路樹の整備等の調査業務を行う。市道東南植物楽園線実施設計を実施した。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	26,334				
		(b) 予算現額	26,334				
		(c) 増減額 (b-a)	0				
		(d) 前年度繰越額	—				
	A. 計 (b+d)		26,334				
	B. 執行済額		26,334				
	うち交付金充当額		21,067				
	次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		計画通りの予算執行となった。					
活動目標（指標）及び達成状況	H24活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	市道東南植物楽園線実施設計を実施	目標	(実施設計)	()	()	()	
		実績	実施設計を完了				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	市道東南植物楽園線実施設計を完了						
成果目標（指標）及び進捗状況	H24成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	市道東南植物楽園線実施設計を実施	目標	()	(実施設計)	()	()	()
		実績		実施設計を完了			
	【参考指標】		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	市道東南植物楽園線実施設計を完了					

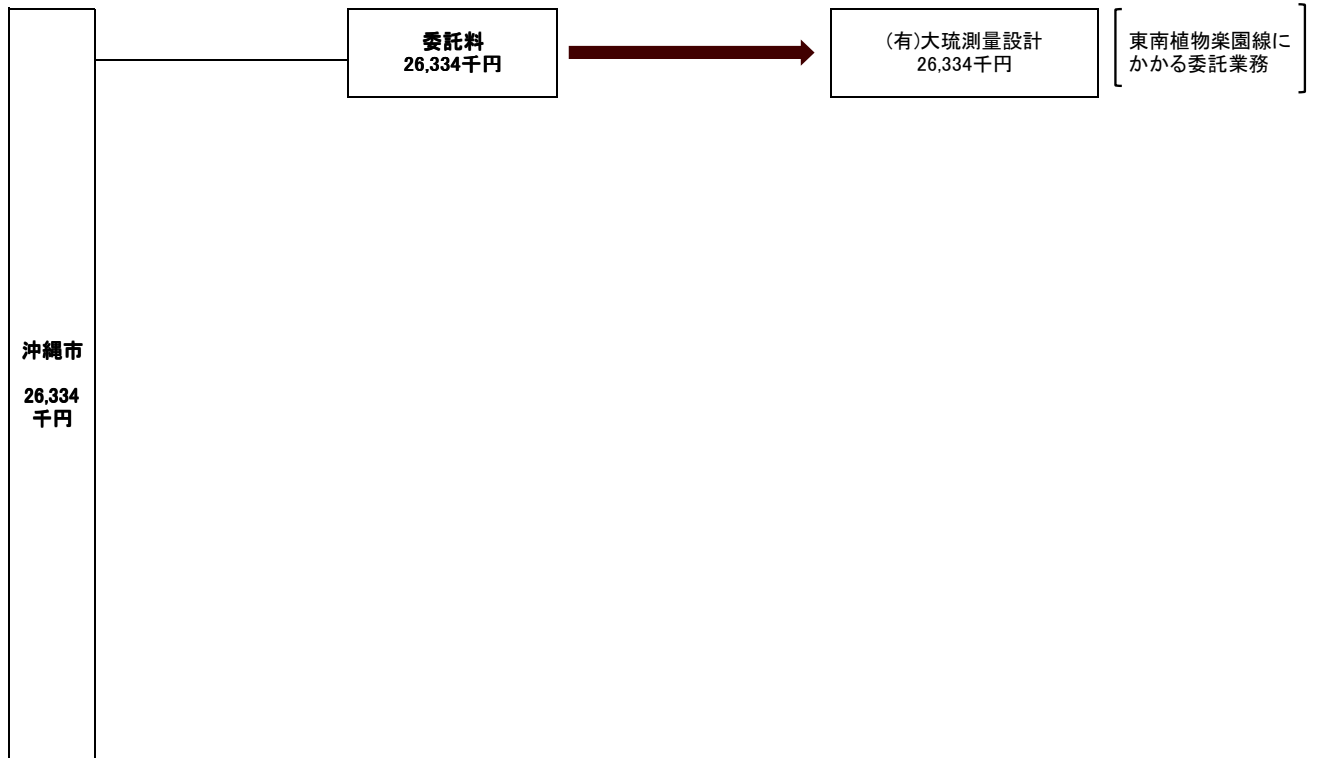
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・東南植物楽園がリニューアルオープンする予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・市道整備にあたっては東南植物楽園との調整を図る必要がある。

今後の取り組み方針

平成25年度以降は、東南植物楽園との調整を行いながら、観光地周辺の道路景観整備を実施する予定。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
26,334	26,334	21,067	5,267	



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負業者は指名競争入札にて決定しており、支出先の選定方法は妥当であったと考える。 ○工事費の積算については積算歩掛け、単価見積等により適正に行っている。 ○費目・使途については、工事完了後に支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

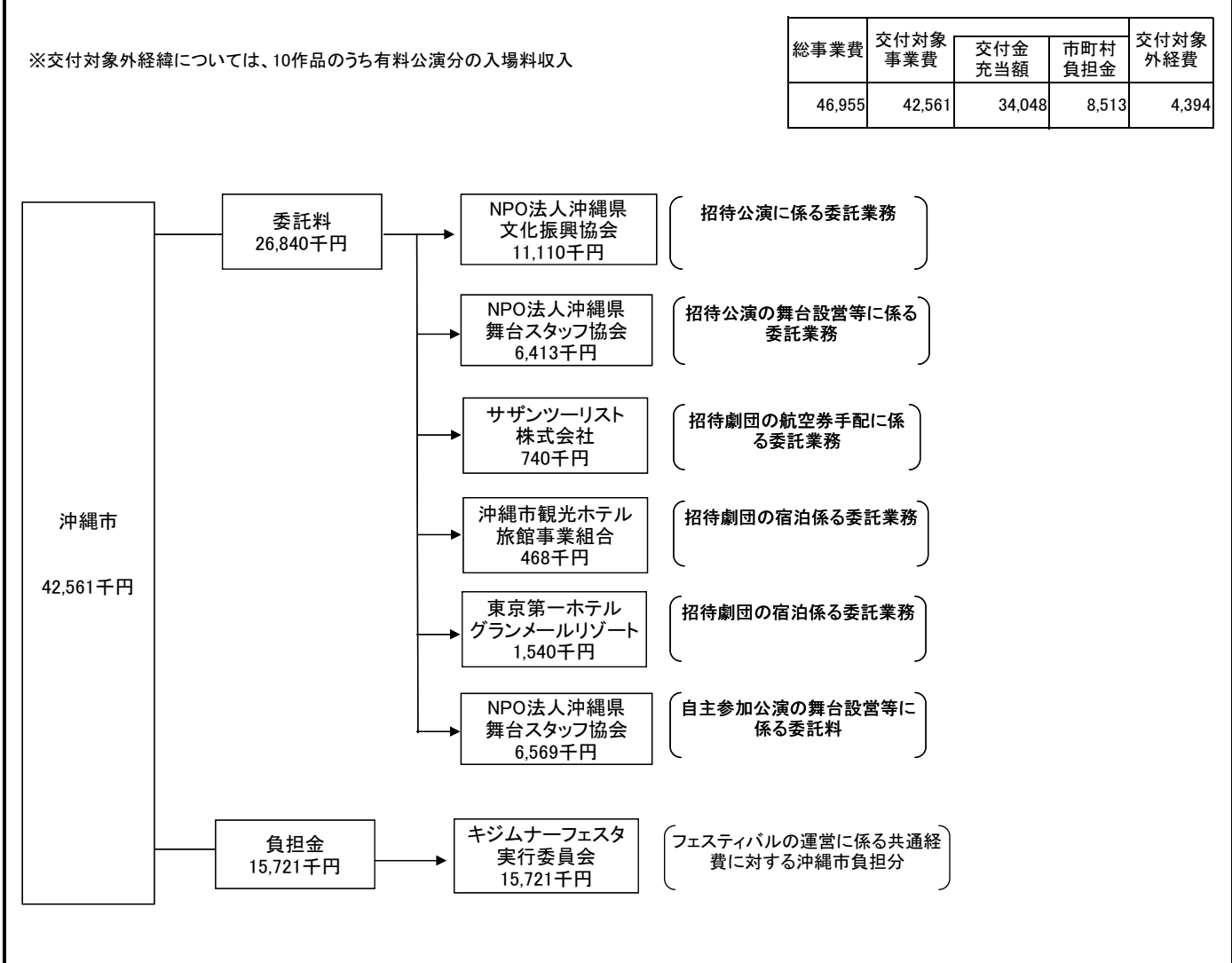
市町村名	沖縄市						
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-ア		
担当部署名	経済文化部 文化観光課	事業実施（予定）年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい個性を持った人づくりの推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	こどもたちが優れた文化芸術にふれ、体験・交流できる機会を創出するため、「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ(キジムナーフェスタ)」やフリンジ(自主参加)公演を開催した。また、世界各国から演劇関係者が集う国際児童青少年演劇協会(アシテジ)第1回国際ミーティングが同時開催された。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 前年度繰越額 A. 計 (b+d)		47,869				
			46,955				
			▲ 914				
			—				
			46,955				
		B. 執行済額	42,561				
		うち交付金充当額	34,048				
		次年度繰越額	0				
		執行率 (%) (B/A)	90.6%				
	予算の状況の説明	執行残があったが、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標（指標）及び達成状況	H24活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	招待作品数	目標	(10)	()	()	()	
		実績	10				
	自主参加作品数	目標	(30)	()	()	()	
		実績	30				
達成状況説明	一括交付金を活用した招待作品として以下の10作品を上演。①がーまるちよばサイレントコメディ、②That'sがーまるSHOW、③桜-満開の日の約束-、④GABEZサイレントコメディ、⑤Be MyBaby! スリルの法則、⑥ベトナム水上人形劇、⑦王子ラム、⑧キョンヒの夢、⑨パンソリ「飛べエコマン!」、⑩RUN 自主参加作品の会場提供等を行うことで、国際児童青少年演劇協会(アシテジ)の世界ミーティング効果を見込んだ劇団からの応募で30作品の自主参加作品があった。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H24成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	キジムナーフェスタ観客動員数	目標	()	(32,000)	()	()	()
		実績		39,765			
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	H24年度のキジムナーフェスタは、国際児童青少年演劇協会(アシテジ)世界ミーティングの同時開催となったことや、作品数が過去最高のプログラム数(全体で86作品)となったこと等で、当初見込みの観客数を上回る結果になった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>国際児童青少年演劇協会(アンテジ)第1回国際ミーティングの開催ということもあり、キジムナーフェスタ全体のプログラム数も過去最高となったことで、観客数は約4万人となっているが、自主参加枠としてエントリーした30作品は、会場を主に小学校に設置したことなどで、観客にばらつきがあった。キジムナーフェスタが演劇祭として今後も発展していくためには、自主参加枠の充実が必要であり(世界の演劇祭の例:アヴィニョン[仏]、エジンバラ[英])、自主参加作品の扱いについて検証が必要。</p>	<p>自主参加作品を含め、フェスタ全体の周知を図り、より多くの集客を目指したプロモーション活動の取組の実施。 自主参加作品数の精査、会場の検討。</p>

今後の取り組み方針

・キジムナーフェスタの更なる周知を図り、誘客向上を目指して、フェスタ開催前及び期間中にパフォーマンスを取り入れた視覚効果の高いプロモーション事業の展開を実施する。
・自主参加作品数の精査 30作品→10作品 (会場を小学校ではない場所に設置)

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>・公演や舞台設営に係る委託業者はキジムナーフェスタ全体の関係から限定されているが、入札が可能な航空券手配については指名競争入札を実施。 ・公演については、入場料を徴収しており受益者との負担関係は妥当であると考える。 ・予算についてはキジムナーフェスタの公演業務等に係るもので必要な経費に限定されている。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
○			

市町村名	沖縄市						
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	沖縄市子ども科学力向上事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ	
担当部署名	指導部 指導課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	<p>子どもたちが、科学の面白さや学ぶことの楽しさを体験することができる事業を実施した。</p> <p>【事業内容】 科学企画展…沖縄こどもの国で恐竜のひみつ展(7月から9月)や磁石のひみつ展(2月から3月)の開催 科学実験イベント…沖縄こどもの国で恐竜、磁石、宇宙、科学工作に関するイベントを実施 体験ワークショップ…沖縄こどもの国で動物の体、化石、生き物、水、電気、地震、超伝導などに関するワークショップを開催 出前科学教室…市内小中学校に出向いて、動植物、空気、真空、磁石、食物連鎖など、特別な実験装置などを使用して体験できる科学授業を実施</p>						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 前年度繰越額 A. 計 (b+d)		16,176				
			23,205				
			7,029				
			—				
			23,205				
	B. 執行済額		23,205				
	うち交付金充当額		18,564				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施するとともに、適正な予算執行に努めた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	①科学企画展の開催 ②科学イベント開催 ③科学ワークショップ開催 ④出前科学教室開催	目標	()	()	()	()	
		実績	①科学企画展の開催(2回) ②科学イベント開催(5回) ③科学ワークショップ開催(26回) ④出前科学教室開催(66コマ)				
			目標	()	()	()	
			実績				
達成説明状況	恐竜のひみつ展(36,369人)や磁石のひみつ展(16,625人)など、各種事業は概ね好評であった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(H23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	科学関連イベント参加者数	目標	(43,622)	(44,000)	()	()	()
		実績		62,534			
	【参考指標】		目標	()	()	()	()
			実績				
進捗説明状況	恐竜のひみつ展(36,369人)や磁石のひみつ展(16,625人)など、各種事業は概ね好評であった。						

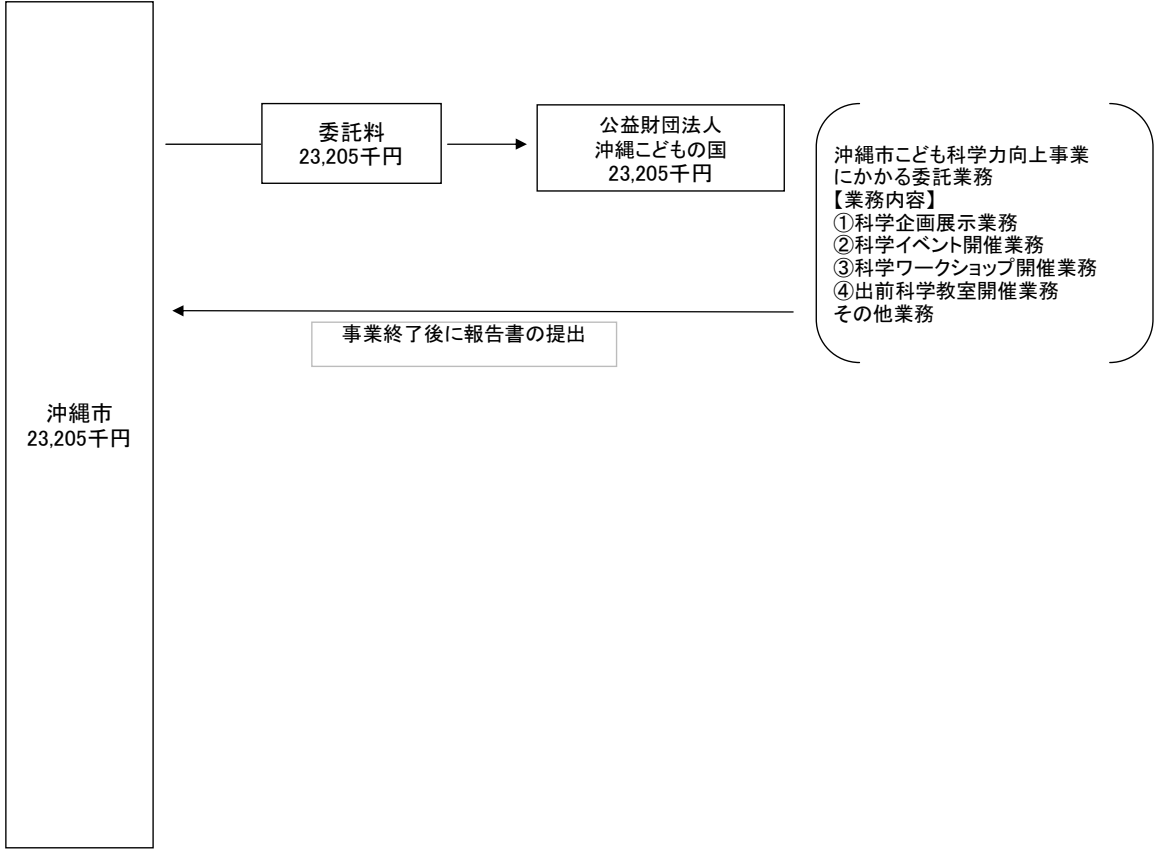
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における授業と本事業で実施する出前科学教室との連携の充実・強化が必要。 ・子どもたちに、科学をより身近に感じてもらう、またはより理解につなげられる内容にする必要がある。 ・沖縄こどもの国を重要な資源として、より活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理科担当教職員に本事業の具体的な活用の図ることによる授業メリットとして捉えられるよう、更なる事業周知の検討。 ・身近な科学プログラムの開発。

今後の取り組み方針

子どもたちへの科学に興味を持たせるための継続的なアプローチ方法や、事業内容などの更なる充実に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
23,205	23,205	18,564	4,641	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	科学イベント等の実施可能場所の確保及び科学イベントに関するワークショップの開催など、特殊専門性のある唯一の団体に委託することにより実現が可能であるため、効果の高い事業展開が期待できる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	沖縄市						
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-②	児童生徒の「わかる・意欲・学ぶ」を支援する事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
担当部課名	指導部 指導課、学務課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	自ら学ぶ意欲を育む教育の充実 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	児童生徒の確かな学力の向上を図るため、授業と社会とのつながりを実感させることや、「わかる授業」の構築などの確立が重要である。そのため、児童生徒一人ひとりの特性を十分把握したうえで、個々の実態に応じた指導体制や指導方法などに取り組むため、書画カメラ等情報教育機器の整備し、各種コーディネーターや指導員・指導助手などを配置して、児童生徒の支援を行った。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	119,105				
		(b) 予算現額	103,405				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 15,700				
		(d) 前年度繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	103,405				
	B. 執行済額		103,403				
	うち交付金充当額		82,720				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施するとともに、適正な予算執行に努めた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	各種授業改善の指導及び補助者の配置 ①キャリア教育コーディネーター ②教科コーディネーター ③日本語指導員 ④小・中外国語指導助手(ALT) ⑤情報通信機器の整備: デジタルテレビ148台、書画カメラ565台		目標 (①キャリア教育コーディネーター(2)) (②教科コーディネーター(3)) (③日本語指導員(4)) (④小・中外国語指導助手(ALT)(25)) (⑤713台)				
		実績 ①キャリア教育コーディネーター(2) ②教科コーディネーター(3) ③日本語指導員(4) ④小・中外国語指導助手(ALT)(25) ⑤708台					
達成状況説明		各種コーディネーター等の活用により、教師の授業改善を図ることを通して、児童生徒に分かりやすい授業を行うことができた。また、日本語に不自由を感じる児童生徒に対して個別指導を行い、学ぶ意欲を持たせて、全体的な学力向上の推進を図った。一応の目標達成はしているものの、今後も学力向上に向けた取り組みについては充実させる必要がある。 情報通信機器の整備として、デジタルテレビについては、中学校の普通教室へ148台の整備、書画カメラについては、小中学校の普通教室及び特別教室へ560台の合計708台の整備を行った。 なお、書画カメラの整備台数は当初の予定より、中学校特別教室への必要な整備台数の減少によるものである。 中学校の普通教室及び特別教室への整備は予定通り、必要とする台数の整備を行うことができた。					

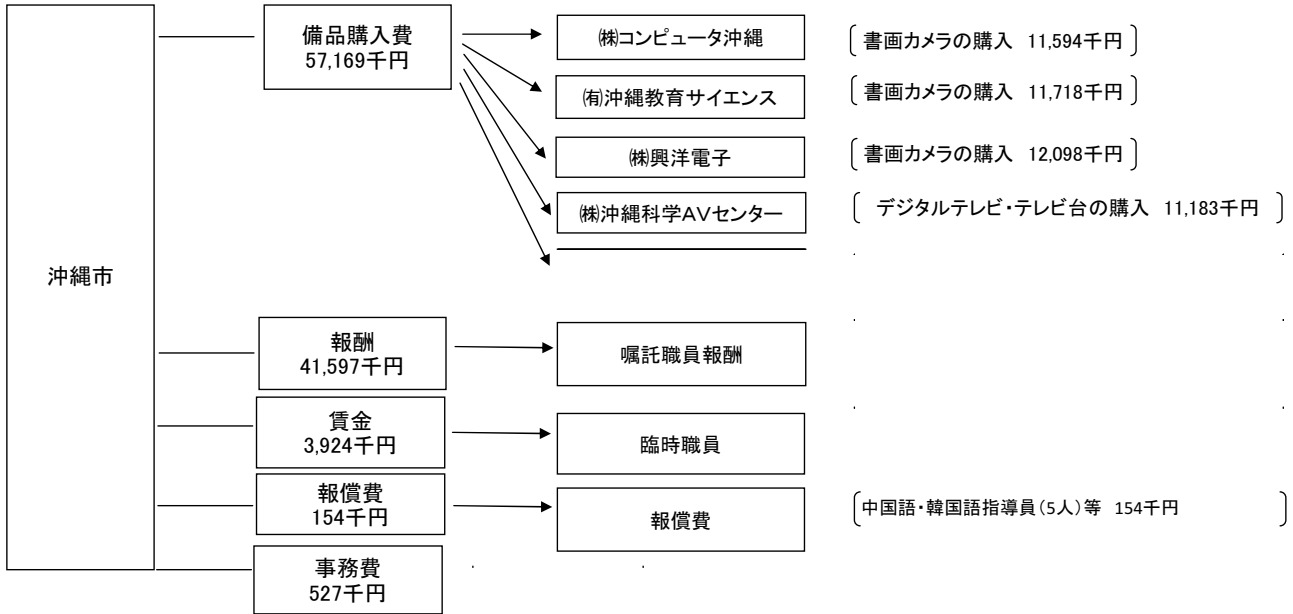
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値 (H24年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	各種授業改善の指導及び補助者の配置 ①キャリア教育コーディネーター ②教科コーディネーター ③日本語指導員 ④外国語指導助手(ALT) ⑤情報通信機器の整備:デジタルテレビ148台、書画カメラ565台	目標	①キャリア教育コーディネーター(2) ②教科コーディネーター(3) ③日本語指導員(4) ④小・中外国語指導助手(ALT)(25) ⑤713台	①キャリア教育コーディネーター(2) ②教科コーディネーター(3) ③日本語指導員(4) ④小・中外国語指導助手(ALT)(25) ⑤713台		
進捗状況説明	各種コーディネータ等の活用により、教師の授業改善を図ることを通じて、児童生徒に分かりやすい授業を行うことができた。また、日本語に不自由を感じる児童生徒に対して個別指導を行い、学ぶ意欲を持たせて、全体的な学力向上の推進を図った。一応の目標達成はしているものの、今後も学力向上に向けた取り組みについては充実させる必要がある。 情報通信機器の整備として、デジタルテレビについては、中学校の普通教室及へ148台の整備、書画カメラについては、小中学校の普通教室及び特別教室へ560台の合計708台の整備を行った。 なお、書画カメラの整備台数は当初の予定より、中学校特別教室への必要な整備台数の減少によるものである。 中学校の普通教室及び特別教室への整備は予定通り、必要とする台数の整備を行うことができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	各学校へ配置している補助者の目的や役割を明確にし、効果的な活用が課題。 小・中学校普通教室及び中学校の特別教室へ整備を行ったが、小学校の特別教室は未整備である。	外国語指導助手や、日本語指導員等の研修会や情報交換会を行い、それぞれの資質向上を図る。また、各学校の担当教諭と調整し、学校・市教育委員会・各配置補助者と共通理解が必要。 事業目標達成に向け、小学校の特別教室へデジタルテレビ及び書画カメラの整備を行う。
今後の取り組み方針		
小学校の特別教室に対して、デジタルテレビ及び書画カメラの整備を進め、書画カメラを活用した多様な授業を行うことで、子どもたちの興味、関心を高め、学力向上を図る。また、各職員を効果的に活用し、標準学力調査の結果を検証し、学力向上推進へ活かす取組につなげる。		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
105,263	103,403	82,720	20,683	1,860



※四捨五入の関係で合計額は一致しない

資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○児童生徒の授業改善に向けた指導・支援に要する人件費及び需要費(教材購入)など適正である。 ○支出先の選定について、本市物品購入等競争入札参加資格登録名簿に基づき、業者選定を行った為、妥当である。 ○費目・使途について、本事業達成に必要な備品に関し関係課と調整を行い選定した為、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

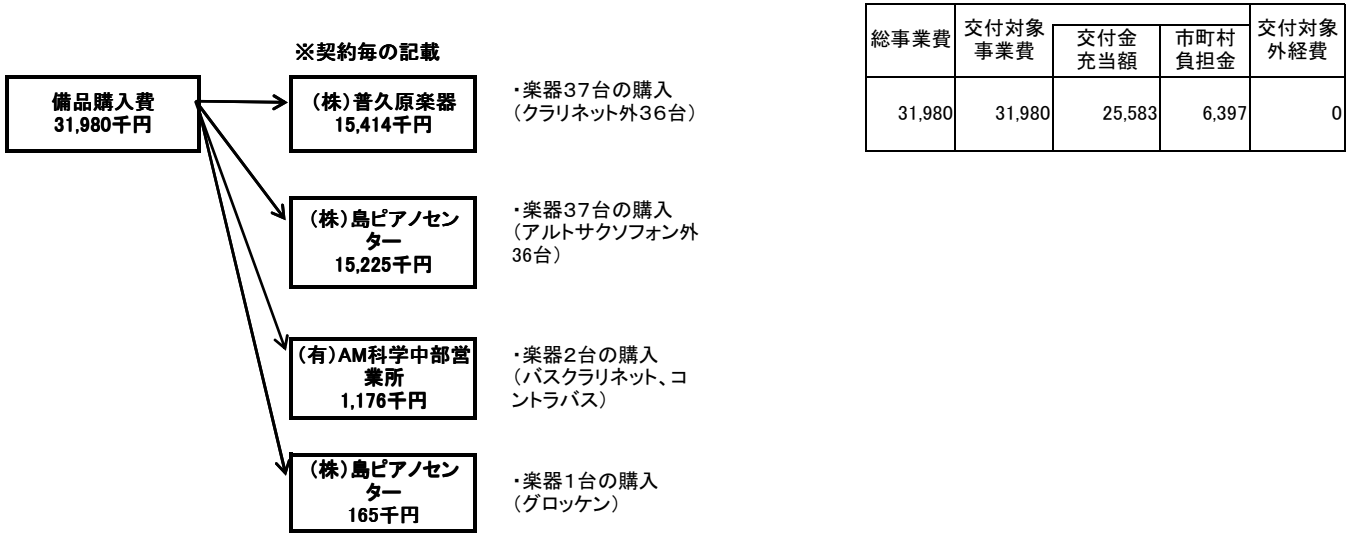
市町村名	沖縄市						
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-③	吹奏楽部支援楽器整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-ア	
担当部署名	指導部 学務課	事業実施(予定)年度	平成24年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい個性を持った人づくりの推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の音楽に対する興味と表現力を育み、音楽とおしたまちづくりや人材育成を図るため、老朽化した吹奏楽部の楽器を整備した。 活動成果を各コンクールや市の事業等で発表することで、更なる技術向上を図り、芸術文化への興味、関心を高めた。 						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	32,000				
		(b) 予算現額	32,000				
		(c) 増減額 (b-a)	0				
		(d) 前年度繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	32,000				
	B. 執行済額		31,980				
	うち交付金充当額		25,583				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		99.9%				
予算の状況の説明		中学校吹奏楽部の楽器整備として、77台の楽器を配置した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	楽器の整備台数	目標	(74台)	()	()	()	
		実績	77台				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 中学校吹奏楽部の楽器整備として、8校へ77台の楽器を配置した。 配分予算を最大限活用した結果、目標台数を上回る台数整備となった。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	楽器の整備台数	目標	()	(74台)	()	()	()
		実績		77台			
	【参考指標】						
	吹奏楽部部員数	目標	()	(—)	()	()	(392 (H28))
		実績		357	405		
進捗状況説明	老朽化した楽器の更新等により、活動内容が充実した結果、部員数が357人から405人となり、参考指標の目標値392人を上回った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	各学校の要望を基に、楽器整備の必要性を検討し、整備を実施したため特に問題ない。	部員数の増減に伴う、楽器の過不足について調査し、楽器の有効活用を図る。

今後の取り組み方針

・本市は「コザ・ミュージックタウン」を拠点とした音楽によるまちづくりを展開している。今回整備した楽器を活用し、音楽に関連するイベント等に参加することで、吹奏楽の技術向上を図ることはもとより、沖縄市の音楽によるまちづくりに寄与する。
 ・吹奏楽部への学校行事等での継続的活動により、学校生活の活性化を図るとともに、他生徒の芸術文化への興味・関心を高める。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
31,980	31,980	25,583	6,397	0

資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定について、本市物品購入等競争入札参加資格登録名簿に基づき、業者選定を行った為、妥当である。 ○費目・用途について、本事業を推進する上で楽器は必要不可欠であることから、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		沖縄市					
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-④	気になる子等の学びを支援する事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ウ		
担当部課名	指導部 指導課	事業実施（予定）年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	自ら学ぶ意欲を育む教育の充実 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	障がいのある子や気になる子、問題行動（不登校など）の子など、程度や状況に応じて、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、それに対応する適切な教育的支援を行うことにより、その子の持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、各種支援員や補助者などを配置して、児童生徒の支援を行った。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	57,489				
		(b) 予算現額	70,787				
		(c) 増減額 (b-a)	13,298				
		(d) 前年度繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	70,787				
	B. 執行済額		70,111				
	うち交付金充当額		26,901				
	次年度繰越額		0				
	執行率（%）(B/A)		99.0%				
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施するとともに、適正な予算執行に努めた。					
活動目標（指標）及び達成状況	H24活動目標（指標）		達成状況				
	児童生徒の行動や学習のサポートをする者を配置 ①心理士 ②保健師、看護師 ③スクールカウンセラー ④心の教室相談員 ⑤スクールソーシャルワーカー ⑥スクールサポーター ⑦学校支援教育補助者 ⑧特別支援教育補助者		目標	24年度	25年度	26年度	27年度
			実績	①心理士(1) ②保健師、看護師(2) ③スクールカウンセラー(10) ④心の教室相談員(8) ⑤スクールソーシャルワーカー(3) ⑥スクールサポーター(1) ⑦学校支援教育補助者(14) ⑧特別支援教育補助者(29)	()	()	()
達成状況説明	気になる子などの対象児童生徒については、年々増加傾向にあるため、各学校からの需要は増える一方である。目標に到達はしているものの、今後も支援の充実に努めていく。						

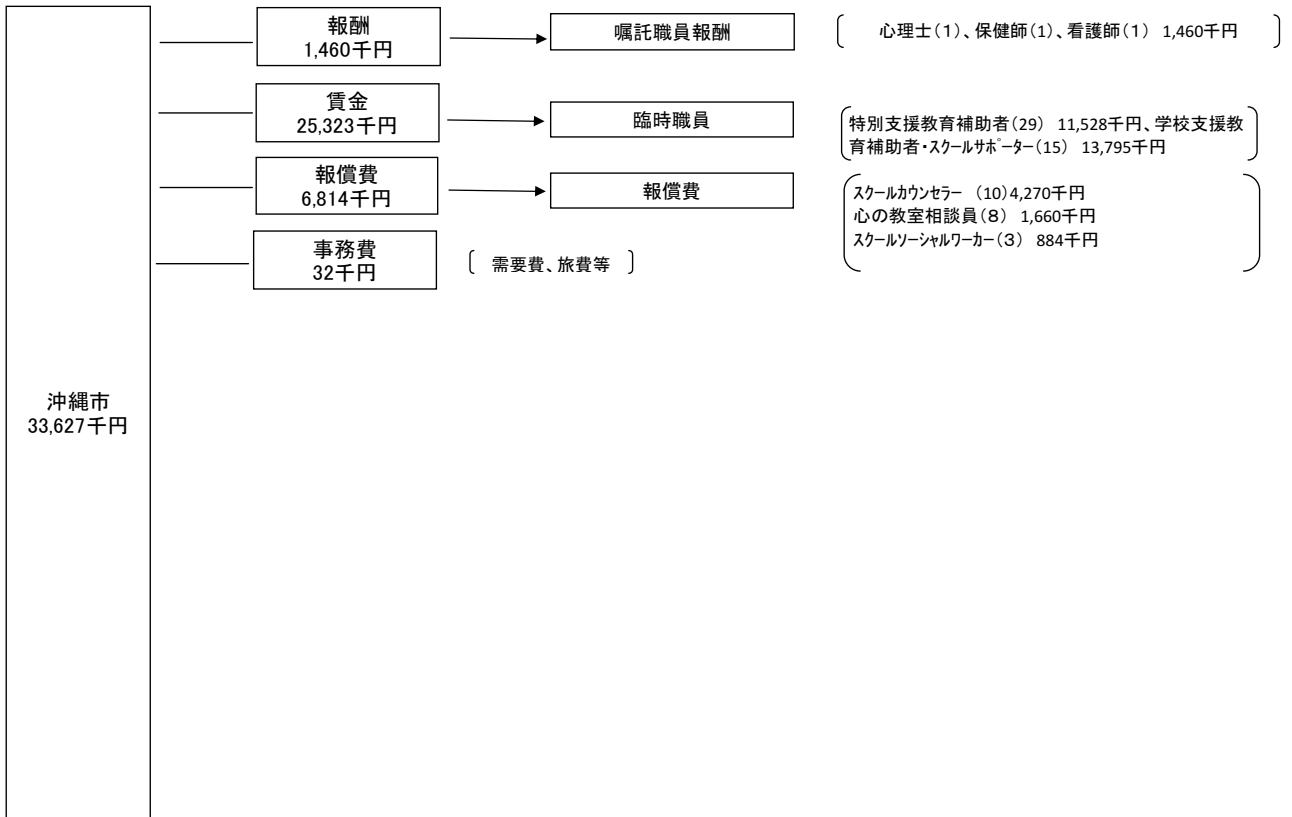
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値 (年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)	
	児童生徒の行動や学習のサポートする者を配置 ①心理士 ②保健師、看護師 ③スクールカウンセラー ④心の教室相談員 ⑤スクールソーシャルワーカー ⑥スクールサポーター ⑦学校支援教育補助者 ⑧特別支援教育補助者	目標	()	①心理士(1) ②保健師、看護師(2) ③スクールカウンセラー(10) ④心の教室相談員(8) ⑤スクールソーシャルワーカー(3) ⑥スクールサポーター(1) ⑦学校支援教育補助者(14) ⑧特別支援教育補助者(29)	()	()	()
		実績	/	①心理士(1) ②保健師、看護師(2) ③スクールカウンセラー(10) ④心の教室相談員(8) ⑤スクールソーシャルワーカー(3) ⑥スクールサポーター(1) ⑦学校支援教育補助者(14) ⑧特別支援教育補助者(29)	/	/	/
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
	実績	/	/	/	/	/	
進捗状況説明	<p>気になる子などの対象児童生徒については、年々増加傾向にあるため、各学校からの需要は増える一方である。目標に到達はしているものの、今後も支援の充実に努めていく。</p>						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>下記が課題としてあげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校へ配置している補助者の役割の明確化。 ・特別支援教育補助者、学校支援教育補助者の人材不足。 ・スクールカウンセラー等の問題の早期発見と問題解決に向けた学校との連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育補助者の資質向上のための、研修会や情報交換会を行う。 ・スクールカウンセラー、心の教室相談員、スクールソーシャルワーカーの研修会や情報交換会開催。
今後の取り組み方針		
<p>既存の教育補助者等の資質向上を図り、発達障がいや、登校しぶりへのより早期・効果的な支援を行うことで、問題悪化や不登校など二次障がいをより多く防ぐ。</p>		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
34,707	33,627	26,901	6,726	1,080



※四捨五入の関係で合計額は一致しない

資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	気になる子への支援に要する人件費及び需要費(教材購入)など適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

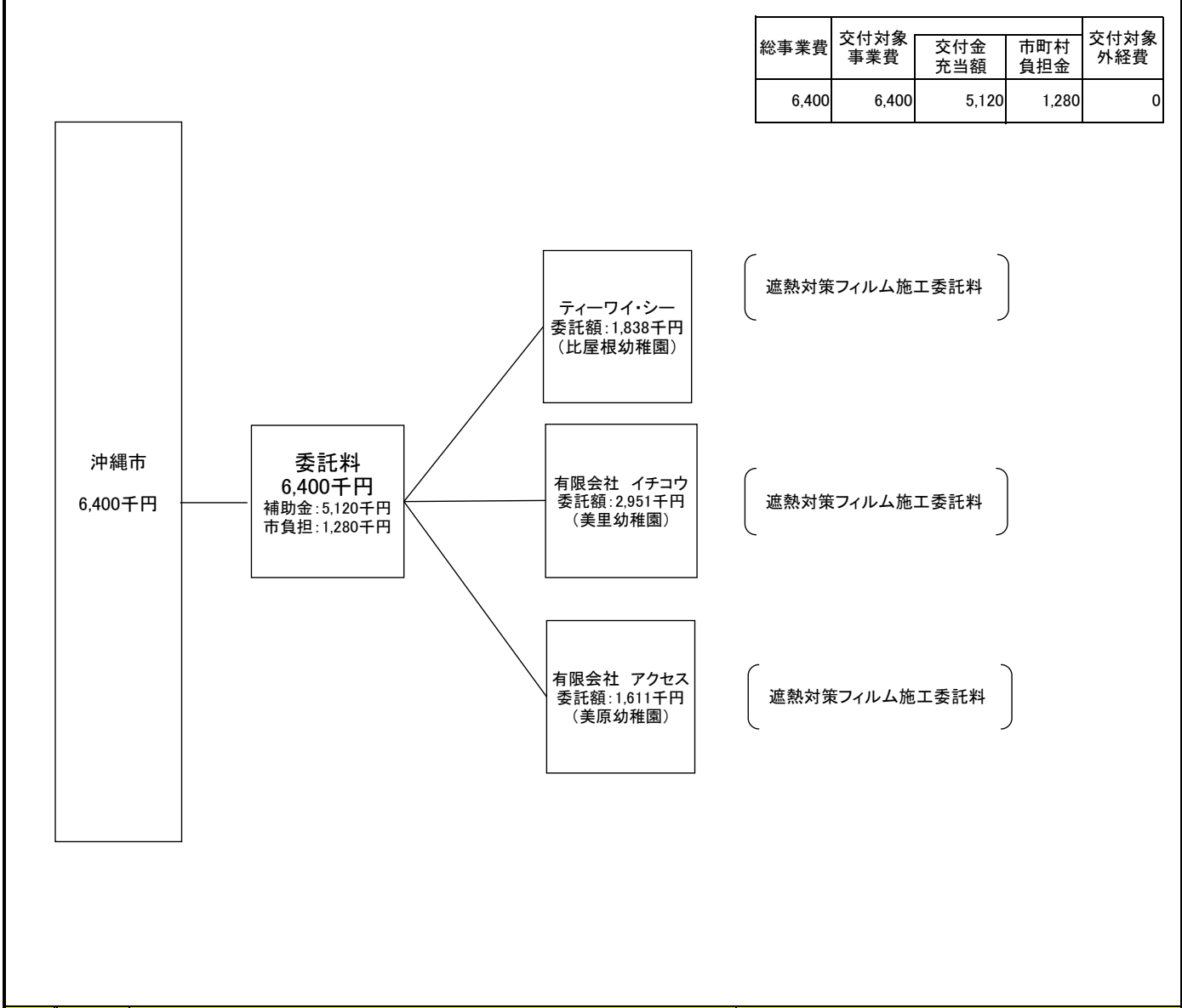
市町村名	沖縄市						
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-⑤	幼稚園園舎遮熱対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ウ	
担当部課名	教育部 施設課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	自ら学ぶ意欲を育む教育の充実 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	保育環境の充実のため、幼稚園舎の窓ガラスに日射調整、断熱、台風等による飛散防止を兼ねた遮熱フィルムを施工した。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,401				
		(b) 予算現額	6,401				
		(c) 増減額 (b-a)	0				
		(d) 前年度繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	6,401				
	B. 執行済額		6,400				
	うち交付金充当額		5,120				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		予算計上時点での見積もりでは、1㎡あたり16,000円という計算で要求し、実契約において差額が発生したため、3園目の契約を行った。それにより活動目標を1園上回る結果と、尚且つ適正な予算執行ができたと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	遮熱対策を実施した幼稚園数	目標	(2園)	()	()	()	
		実績	3園				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	活動目標2園に対し、交付金の有効活用を行い3園実施することができ、目標以上の数値結果を出すことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	幼稚園の遮熱対策実施率	目標	()	(12.50%)	()	()	()
		実績		18.75%			
	【参考指標】		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	事業進捗に関して、活動指標の達成状況からもわかるように、成果目標に向けて着々と事業を推進している状況である。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	遮熱対策事業として、フィルム施工が出来たことは園児・園舎に対する環境整備として有効であったと考える。	建設されている園舎に対して、遮熱対策を行うのではなく「新築」や「改築」の際に、施工することがより望ましい。そうすることで、コスト的な面でも軽減することが可能と考える。園舎新增改築の際などに同時施工で遮熱対策が行えるように、事業の見直しも検討しながら取り組んでいく。

今後の取り組み方針

・平成24年度に実施した3園に対する事業効果としてデータ収集を行い、他園に実施する必要があると判断した場合には事業を実施し目標達成に向け取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	予算計上から契約に至るまでの、経過としては通常の手続きを行っており、問題はないと思われる。 しかし、上記でも書いたように「新增改築時」に同時に施工することでコストを抑える事が可能と考えると、一括交付金活用が妥当なのか考慮する余地があるため、△とした。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	△	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

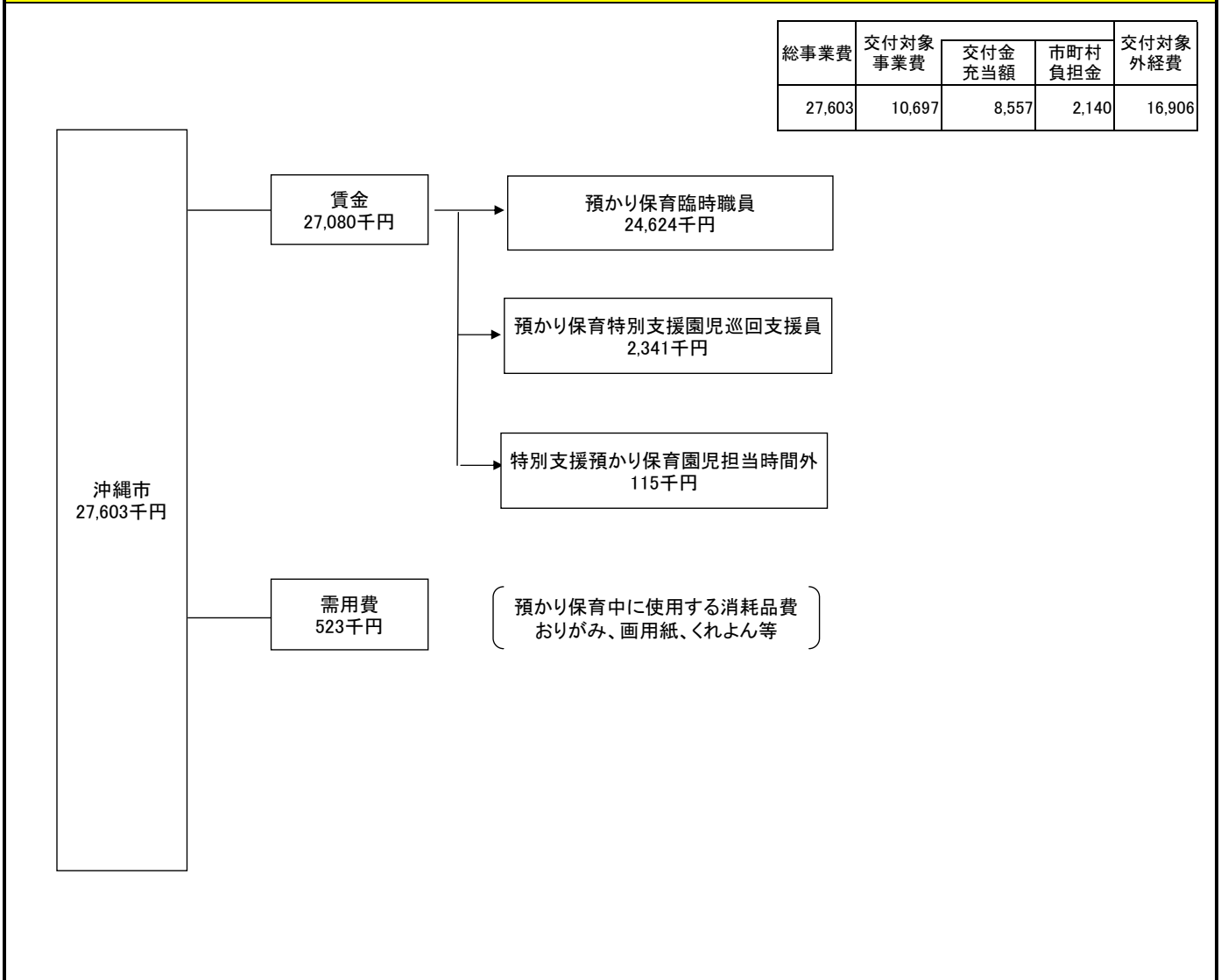
市町村名	沖縄市						
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-②	園児の健やかな成長を支える保育事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ	
担当部課名	こどものまち推進部 保育・幼稚園課	事業実施（予定）年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	子育てセーフティネットの充実 Ⅲ-4-(1)	
事業内容	子育て家庭の保育ニーズに対応するため、幼稚園において、教育時間の終了後も引き続き園児を預けることのできる、「預かり保育」を実施した。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	38,612				
		(b) 予算現額	28,118				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 10,494				
		(d) 前年度繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	28,118				
	執行の状況	B. 執行済額	27,603				
		うち交付金充当額	8,557				
		次年度繰越額	0				
	執行率 (%) (B/A)		98.2%				
予算の状況の説明		特別支援預かり保育園児担当時間外、特別支援園児巡回臨時職員については12月に内諾が得られ、内諾後に募集をしたが応募者がなく、支援員を配置することができなかったため、予算減額となった。また、預かり保育支援員1名が辞職したことにより執行残が生じている。					
活動目標（指標）及び達成状況	H24活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	預かり保育実施園	目標	(16園)	()	()	()	
		実績	16園				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	預かり保育を全園(16園)で実施することにより、安心して就労・子育てができる環境を提供することができた。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H24成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（H28年度）
	預かり保育利用園児数	目標	()	(350)	()	()	(550)
		実績		369			
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 申込み期間中に要件を満たした園児については全員受け入れをしているため、目標よりも利用園児数が増加した。 学童保育を利用している保護者より、預かり保育を希望したいとの声も多く、預かり保育利用園児が増加することが予想される。 					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>学童保育は本来小学生の児童が対象であるが、本市では学童保育を利用する園児も多い。小学生の学童保育利用者が増加している傾向にあることから、今後、幼稚園児の学童保育利用が困難になる可能性がある。</p> <p>また、預かり保育における特別支援児の支援体制が十分でない。支援員等の幼稚園教諭を募集しても応募者が少なく、配置が困難な状況がある。</p>	<p>預かり保育は1名のクラス担任が保育をしているが、特別支援児及び気になる子も利用が増加していることから、園児へのきめ細やかな保育・指導をするためにも必要な支援員の配置が必要。</p>

今後の取り組み方針

- ①子どもに関する支援施策の充実・強化を図り、将来の発展を支えていくための原動力となることも達が、元気にたくましく育つ環境づくりを進めていく。
- ②保護者の子育て支援を図り、サービスの向上を図るためにも預かり保育の受け入れ人数等の拡充を図るため必要な幼稚園教諭の配置に努める。
- ③保護者からの要望が多い、預かり保育利用園児への給食導入に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○16園全園にて預かり保育を実施しているため、予算規模は適正規模である。</p> <p>○保護者から預かり保育料を徴収しており、受益者との負担関係は妥当であると考えられる。</p> <p>○賃金・需用費についても、使途は預かり保育に係るもののみで、必要な経費に限定されている。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

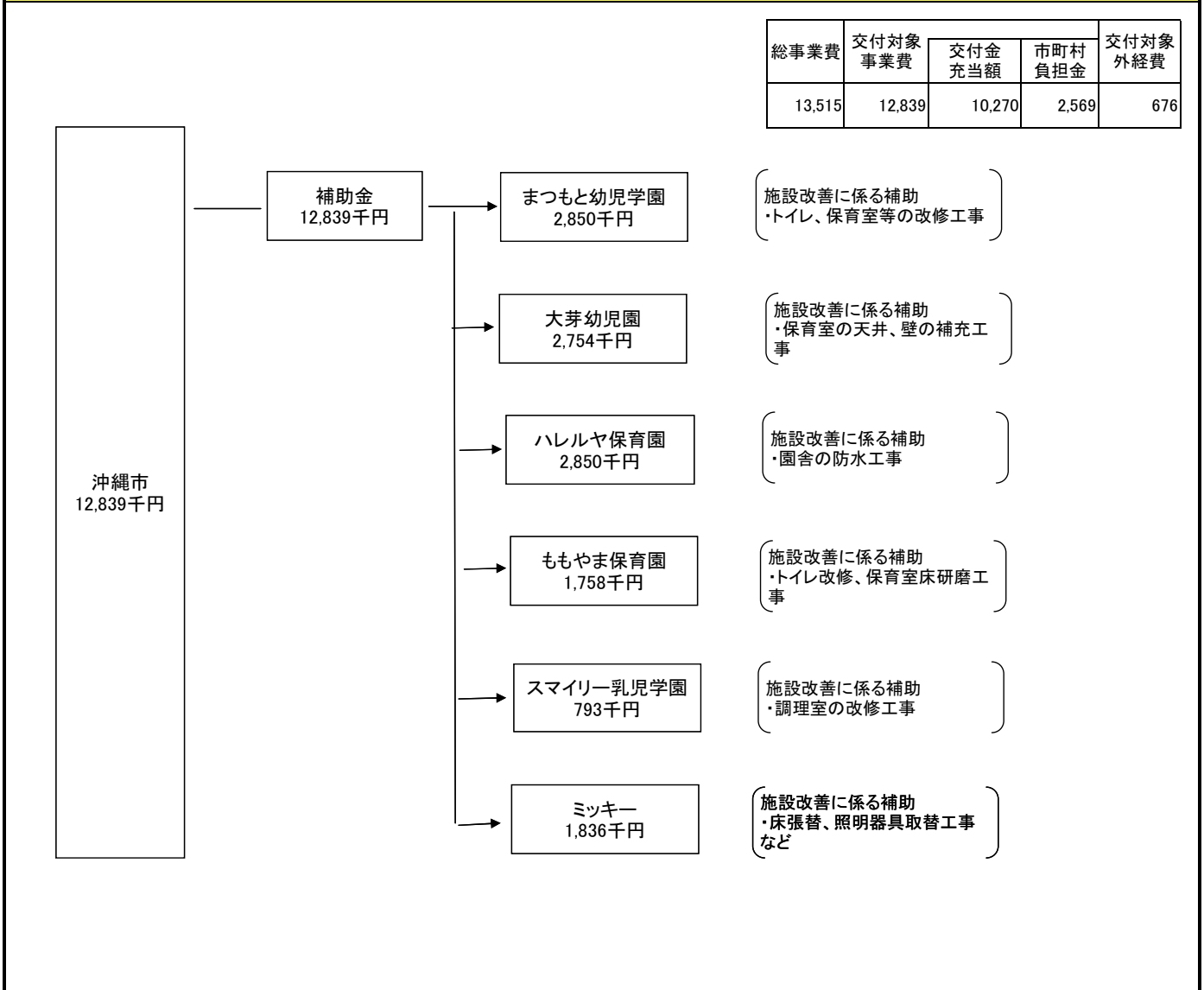
市町村名		沖縄市									
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	6-③		認可外保育施設支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ					
	担当部課名	こどものまち推進部 保育・幼稚園課		事業実施(予定)年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	子育てセーフティネットの充実				
事業内容		保育環境の充実支援を図るため、認可外保育施設指導監督基準を満たす施設に対し、施設改善費の補助を行った。									
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）										
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）	予算の状況	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
		(a)当初予算額	62,856								
	(b)予算現額	12,839									
	(c)増減額(b-a)	▲50,017									
	(d)前年度繰越額	-									
	A.計(b+d)	12,839									
	B.執行済額	12,839									
	うち交付金充当額	10,270									
	次年度繰越額	0									
	執行率(%) (B/A)	100.0%									
予算の状況の説明		予算に計上した一部事業(①保育士の社会保険料に係る事業主負担分の補助②保育士の資格加算補助)で、内諾が得られず交付金事業計画に計上できなかった。また、保育士人件費補助については、人材派遣業者への委託による保育士派遣について内諾を頂いていたが、事業を精査していくなかで、人材派遣業者を介した事業内容に見直しの必要性があったため、保育士人件費補助として補助金へ変更し、さらに、保育士の社会保険料に係る事業主負担分の補助及び保育士の資格加算補助等を新たに加えた事業として提案したが、事業内容の確認に時間を要したことから、保育士の確保等で困難な状況であったため実施には至らなかった。(2月補正で△50,017千円)。 認可外保育施設に対する施設改善費補助については、6施設の認可外保育施設に対し補助を行い、入所児童の処遇向上を図った。									
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況								
			24年度	25年度	26年度	27年度					
	保育士人件費補助(保育士数)	目標	(13人)	()	()	()					
		実績	0人								
	施設改善費補助(認可外保育施設数)	目標	(5施設)	()	()	()					
実績		6施設									
達成状況説明	保育士人件費補助については、当初、人材派遣業者への委託による保育士派遣について内諾を頂いていたが、事業を精査していくなかで、人材派遣業者を介した事業内容に見直しの必要性があったため、保育士人件費補助として補助金へ変更し、さらに、保育士の社会保険料に係る事業主負担分の補助及び保育士の資格加算補助等を新たに加えた事業として提案したが、事業内容の確認に時間を要したため、実施には至らなかった。 施設改善費補助については、認可外保育施設指導監督基準を満たしている園に対し、アンケート調査及び現地確認により、基準を維持するために施設改修費補助を希望する6施設に対し、300万円(内0.5/10は施設負担)を条件として、保育室や調理室等の修繕支援が出来た。										
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)				
	保育士人件費補助(保育士数)	目標	()	(13人)	()	()	()				
		実績		0人							
	施設改善費補助(認可外保育施設数)	目標	()	(5施設)	()	()	()				
		実績		6施設							
進捗状況説明	保育士人件費補助については、内諾後に保育士の処遇向上を図るための事業内容への変更を提案したが、内容の調整に時間を要したため、事業の実施には至らなかった。 認可外保育施設指導監督基準を満たしている園に対し、アンケート調査及び現地確認により、基準を維持するために施設改修費補助を希望する6施設に対し、300万円(内0.5/10は施設負担)を条件として、保育室や調理室等の修繕支援が出来た。										

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>今回提案した認可外保育施設に対する支援については、当初、新規で保育士を採用したら補助を行う、というものであったが、認可外保育施設で保育に従事する有資格者の割合を増やす(認可外保育施設指導監督基準の配置基準を満たす)ことが必要であることから、指導監督基準に定める有資格者の割合を維持・増加することを目的として調整を行っていた。</p> <p>しかしながら、すでに有資格者の基準を満たしている施設に対する補助のあり方について整理ができていなかったため、事業実施には 至らなかった。</p> <p>施設改善費補助については、取り組みが遅かったこともあり、補助申請を見送る施設もあった。</p>	<p>保育士人件費補助については、認可外保育施設に入所する児童の処遇改善を図るためには有効な支援策だと考える。しかしながら、補助を行うにあたり、既に有資格者の配置基準を満たす施設に対しては切り分けて考えるなど、事業の整理を行っていく。</p>

今後の取り組み方針

- ・対象となる認可外保育施設の代表者と意見交換を行うなど、支援のあり方について整理していく。
- ・施設改善費補助については、平成25年度より県の待機児童対策特別事業の中で実施されることから、平成25年度の事業実施については見送る予定。
- ・保育士の人件費等に係る補助(①保育士の社会保険料に係る事業主負担分の補助。②保育士人件費補助。③保育士の資格加算補助)については、制度全体の整理が必要なため、事業の内容を精査し実施に向けて調整していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



※四捨五入の関係で合計は一致しない

資金の流 れ、費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○対象施設については、技師において現場確認をし必要性を判断している。</p> <p>○施設改善に対する補助額及び施設負担額については、県の類似の事業を参考に設定している。</p>
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
○			

市町村名		沖縄市						
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	7-①	若年者就労等支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-イ			
	担当部署名	経済文化部 雇用対策課	事業実施(予定)年度	平成24～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-2		
事業内容	雇用の創出および失業者対策を図るため、若年求職者及び保護者、企業等を対象に、支援員等による就労支援、ワークショップ・サロンの定期開催等を実施した。 また、心因性の理由等により就職が困難な若者を対象に、社会的・経済的自立支援を図るため、就労へ向けた支援やインターンシップ、職業訓練等を実施した。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）							
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	17,332					
		(b) 予算現額	11,890					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 5,442					
		(d) 前年度繰越額	—					
		A. 計 (b+d)	11,890					
	B. 執行済額		8,100					
	うち交付金充当額		6,479					
	次年度繰越額		0					
	執行率 (%) (B/A)		68.1%					
予算の状況の説明		・不要額が3,790千円発生している理由として、事業計画時では実施期間を9カ月とし予算計上をしていたが、実施に遅れが出たこと、当該事業を2月中で終結させ、実際は5カ月の実施にとどまったことから、4ヶ月分の経費が不要となり減額が生じた。ただし、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	＜若年無業者就労等支援事業＞ ①アウトリーチ件数 ②農業実習 ③自立訓練 ④インターンシップ ⑤ビジネスマナー講習 ⑥自己理解講習	目標	①240件 ②24回 (③6回 ④6日) () () ()					
		実績	①125件 ②20回 ③5回 ④48日 ⑤1回 ⑥1回					
＜若年者雇用対策事業＞ ①巡回就労相談 ②サロン・ワークショップ ③若年者就職マッチング説明会 ④沖縄版キッズニア ⑤セミナー・講座 ⑥(仮称)若年者就労支援ネットワーク連絡会	目標	①週3回②月2回 (③月1回④年4回) () () ()						
	実績	①週1.2回 ②年1回 ③年2回 ④年2回 ⑤月2回 ⑥年2回						
達成状況説明	<p>＜若年無業者就労等支援事業＞ 市内若年無業者を対象に、親や教育機関等からの要求に基づいて訪問支援担当によるアウトリーチ(自宅訪問)を125件行い、実人数23人中、12人はインターンシップや農業実習等の就労支援や学習支援、生活訓練の支援メニューにつなげた。北中城村にある農園では、雑草取り、種まきから収穫まで毎週1回、農業実習を行った。月1回、元沖縄産業開発青年協会職員を講師に招きラジオ体操や声だし訓練や地域ボランティア活動を行った。6社のインターンシップ先に対象者を受け入れもらい、2名の就職先が決定した。ビジネスマナー講習やキャリアカウンセラーとの面談による自己理解講習で、自己アピール法や自己適正を知る機会を設けた。</p> <p>＜若年者雇用対策事業＞ 市内在住あるいは市内の教育機関に通学中の若年者を対象に、地域を巡回し事業を展開した。巡回先が市内の公民館や教育機関(高等学校、専門学校等)であったことから、事業開始時は事業に対する理解や認知度を高めること、若年者の掘り起こしなどに重きをおいたことから(※最初の2ヶ月間は準備期間としている)、当初の事業計画通りには進められなかった部分がある。しかし、同事業を通して地域の中に入り支援を行ったことで、若年者就労支援に関する課題等が多く見受けられた。 ※利用者数について…累計321名、巡回相談85名、サロン・ワークショップ6名、マッチング説明会15名、キッズニア86名、セミナー103名、連絡会26名</p>							

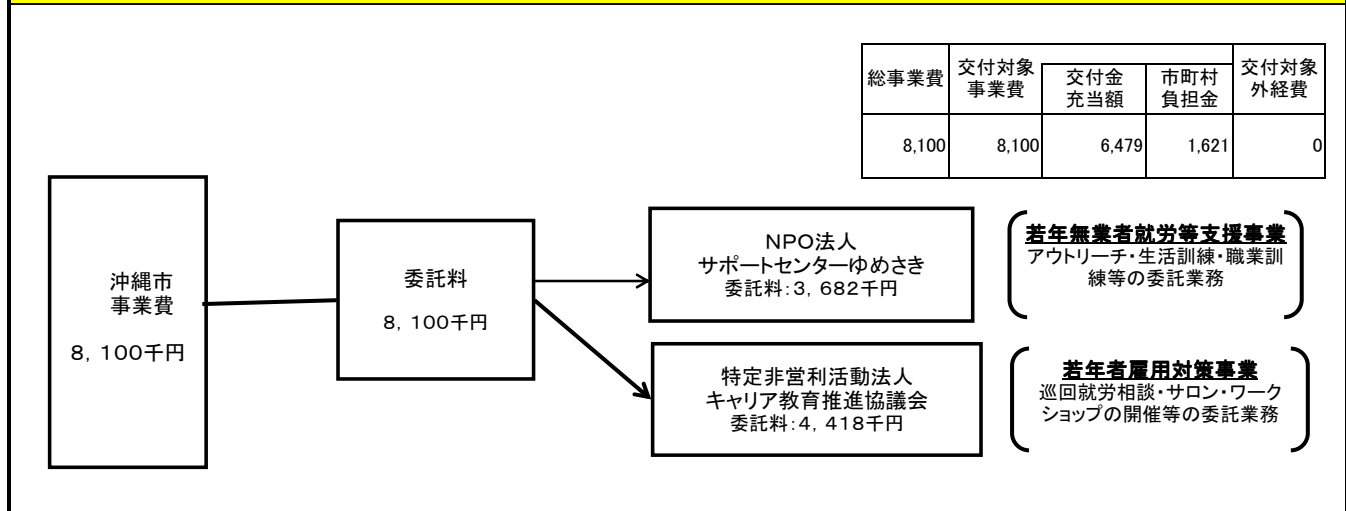
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値 (年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	①アウトリーチ人数(実数) ②生活支援人数(延べ) ③巡回就労相談人数	目標 () () () () ()	() () () () ()	①200人 ②400人) ③240人	() () () () ()	() () () () ()
	実績		① 23人 ②157人 ③ 85人			
進捗状況説明	<p><若年無業者就労等支援事業> アウトリーチは支援者と対象者のマッチング、訪問による重大な弊害が生じる可能性も踏まえた上での関係者からの情報交換などの事前準備にも時間を要し、更には対象者が支援を受け入れるまでには継続した訪問が必要であるため一人に付き一回で終わるものではないことから、実人数23人(述べ125人)と目標数値を下回った。また、目標全般に亘るが生活支援人数は、事業開始後の約2ヶ月は準備や調整業務に比重があったため、目標数値を下回った。</p> <p><若年者雇用対策事業> 当初見込んでいた実数より利用者数が伸びなかったことから、巡回就労相談の目標を下回った。地域内においての就労相談は初めての取り組みであったことから、地域との連携や利用者の掘り起こし等の課題が生じたため、事業開始時は相談支援の定着に至らなかった。</p>					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
		<p><若年者雇用対策事業> 本事業の対象者である若年者の掘り起こしや関係機関との連携体制の構築に時間を要したことで、全体的に目標数値を下回った。特定の場所を設けず巡回という形で支援を実施したことから、事業の周知等に時間を要し、特に若年者が自ら足を運んで支援を必要とする仕組み作りにも困難を極めた。また、就労相談を実施した中で、就労以前の問題を抱えている(ex.発達障害が疑われる、家庭環境に問題を抱えている等)若年者、特に学生が多く見受けられたことから、学校との連携により卒業後の支援体制の構築を図る必要性があるなど、関係機関とのネットワークの構築を図ることが必要である。</p> <p><若年無業者就労等支援事業> 義務教育から離れた後の引きこもりやニートの若者の早期支援・早期発見が困難である他、現場レベルでも本人の状況に応じた明確な対応が課題である。</p>

今後の取り組み方針

<p><若年者雇用対策事業> 事業の周知に関して見直しをし、チラシ等の紙媒体やインターネット、市や地域の広報誌等を活用し、周知活動をより強化する。また、早い段階で学校や公民館を訪問し、連携体制を整える。事業開始年度は目標数値を下回ったことから、比重の高い支援メニューについては今後も強化しつつ、実施に課題がある支援メニューについては目標数値の見直しや支援内容の改善、あるいは廃止も検討する。 今回実施した中で見えてきた若年者就労支援に関する課題を今後の実施内容に反映させ、更なる就労支援の強化を図る。</p> <p><若年無業者就労等支援事業> 周知活動や連絡会などを通して教育機関、福祉機関、医療機関等の各関係機関と現場レベルでの具体的なネットワークの構築を図り、就職が困難な若者を対象に、社会的・経済的自立支援に取り組む。</p>

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式と経験、知識を特に必要とする特定の者でなければ履行できない随意契約により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

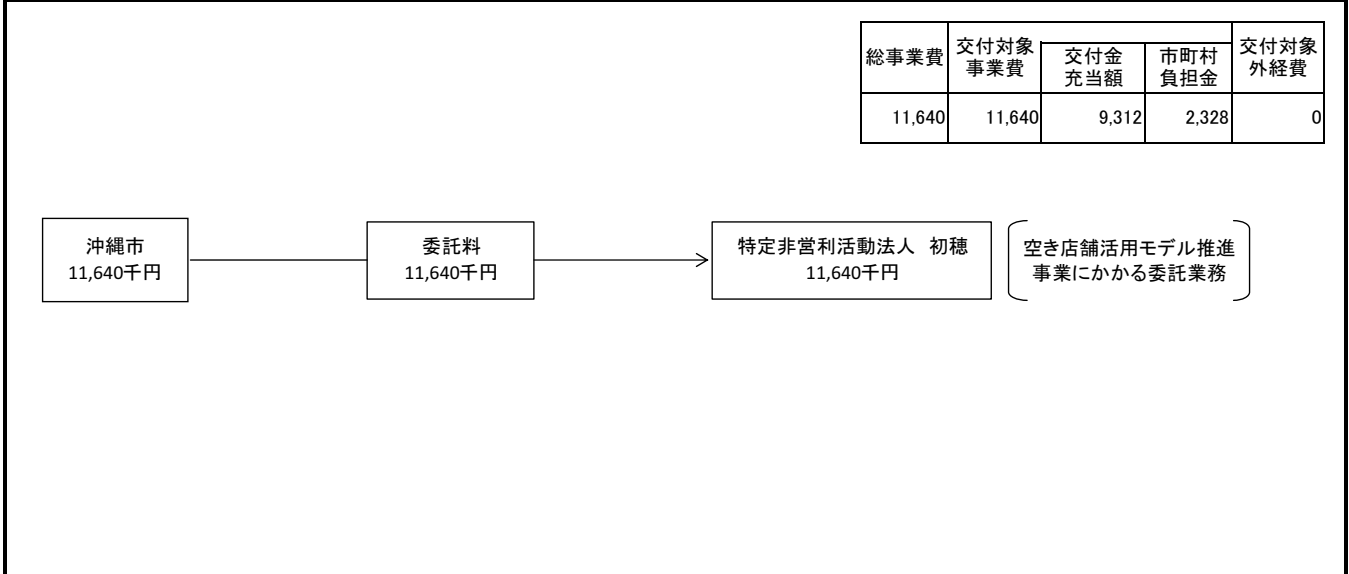
市町村名	沖縄市						
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-③	空き店舗活用モデル推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(8)-イ		
担当部課名	経済文化部 中心市街地活性化推進課	事業実施(予定)年度	平成24年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域を支える中小企業等の振興 Ⅲ-2		
事業内容	地域において障害者の雇用の場を確保し、地域の一員として社会参加の場づくりを推進するため、空き店舗を活用した植物工場を設置し、葉野菜の計画的栽培や直売及び商品開発を実施するとともに、空き店舗活用のモデルを構築する実証実験を実施した。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 前年度繰越額 A. 計(b+d)		12,450				
			12,433				
			▲ 17				
			—				
			12,433				
	B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額		11,640				
			9,312				
			0				
	執行率(%) (B/A)		93.6%				
予算の状況の説明	平成25年3月中に実績額の確定をおこなう必要があることから、交付金対象事業を2月末で完了。これに伴う工期及び額の変更契約をおこなったため、1か月分の委託料が減額となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	空き店舗を活用した植物工場の設置	目標	(空き店舗活用)	()	()	()	
		実績	空き店舗活用				
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	本市中心市街地における中心商店街である一番街商店街内の空き店舗を活用することで、商店街の課題である空き店舗の解消が図られた。また、商店街で実施する植物工場としては県内で初の取り組みであることから話題性を呼び、商店街における集客(にぎわい創出)に寄与した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
	障がい者の雇用促進	目標	()	(4人)	()	()	()
		実績		総数14人			
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	当該事業の実施により、目標である4名の雇用創出を達成。しかしながら、障がい者においては、作業従事に対する適応性が障がいの程度によりそれぞれ異なり、短期の雇用となるケースが多く、結果的には事業期間中総勢14名の雇用となった。今後は、障がいの程度に応じた適正な作業内容の分担や教育等を強化など、障がい者の自立に向けた支援が重要な課題である。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>(1) 生産状況</p> <p>①生産量は、計画13,007株に対し、実績は9,430株となった。</p> <p>②作付計画に基づいた生産は、植栽本数ベースでは計画通りだが、重量ベースでは計画目標が未達となった。</p> <p>③品目によって管理が異なるため、品目特性の出にくい品目がある。</p> <p>(2) 販売状況</p> <p>①今期の県内野菜生産状況は、降雨量、日照ともに恵まれ、豊作型で推移し、野菜価格が安値傾向で推移している。</p> <p>②消費者やスーパー量販店のバイヤーなどから室内栽培で安全・安心や品質は高い評価を受けるが、売単価が高いため、買い控えされる傾向にある。</p> <p>③一般市場(直売店、量販店等)においては、露地野菜のボリューム感や売価を比較すると約3倍高く、買い控えが目立つ。</p> <p>④固定客を確保することが安定した再生産につながるが、現在は生産量に見合った注引量がなく、個別販売に苦慮しているが、一番街周辺の飲食店などに周年安定価格、安定出荷のメリットを理解いただき、定期的な販売も一部ある。</p> <p>(3) 障がい者の雇用促進</p> <p>障がい者は、その程度によって作業従事に対する適応性がそれぞれ異なるため、短期雇用となるケースが多く、継続雇用による自立支援が今後の課題である。</p>	<p>(1) 野菜</p> <p>①固定客の拡大 販売高の安定化を図るには、業務筋(ホテル、飲食店)における安定的な販売を確保する。</p> <p>②顧客ニーズの品目生産 飲食店のメニューによって用途が異なるため、品目のリクエストに対応し販売確保に努める。</p> <p>③新規品目導入 端境期の品目や、イチゴなど幅広い年齢層に需要の高い品目の導入やここでしか手に入らない野菜等の栽培を検討しブランド化を図る。</p> <p>(2) 障害者雇用</p> <p>①雇用者について これから農業法人・一般企業・行政の植物工場経営及び設置事業が増えると考えられ、現在、担当利用者は3名で、技術を習得させ一般に就職させる事で、新たな利用者の雇用創出を図る事で社会に貢献する。</p> <p>(3) その他</p> <p>①維持管理について 栽培管理の徹底を行い、播種・定植・移植の効率、栽培棚の有効活用(栽培棚のサイクルの有効的活用)、育成期間の短縮技術を身につけ、市場に求められる品目、収益率の高い品目を導入し収量・増収益アップを図り安定した経営を行う。</p>

今後の取り組み方針

消費者や一般市場へ安定供給・安心安全であることの周知や、植物工場で栽培する野菜等をブランド化することにより収益増を目指す。また、空き店舗を活用し植物工場を増やすことにより新たな品目の栽培や障がい者の育成、雇用の場の創出を図っていく。
現在の維持管理費はほぼ電気料金であるため、今後ライト等をLEDに変更するための検証を実施予定。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費用・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託先の選定については、提案型プロポーザル方式により事業者としての適格性、事業計画の確実性、事業実績やノウハウなどを審査し決定しており妥当だと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・受託事業者は、当該事業の実施に際し、自主的に自主財源を投入し事業を受託している。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費用・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	沖縄市						
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-①	伝統工芸産業支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-イ	
担当部署名	経済文化部 商工振興課	事業実施(予定)年度	平成24～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	文化産業の戦略的な創出・育成 Ⅲ-3-(2)	
事業内容	工芸産業の振興を図るため、本市の伝統工芸、工芸産業振興の中核である知花花織事業協同組合の生産体制の強化や担い手の育成および販路拡大等に対し支援を行った。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	17,370				
		(b) 予算現額	20,130				
		(c) 増減額 (b-a)	2,760				
		(d) 前年度繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	20,130				
	B. 執行済額		2,800				
	うち交付金充当額		2,240				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		13.9%				
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	知花花織事業協同組合への支援 ・販路拡大支援 ・販売促進支援	目標	(1回)	()	()	()	
		実績	銀座松屋(東京)において展示・販売会を実施				
			目標	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	○知花花織展示販売会 開催期間:平成25年2月13日(木)～2月26日(火) 開催場所:株式会社松屋 銀座店 特別イベント:琉球舞踊特別講演 広報(PR活動)関係 [美しいキモノ春号(4ページ掲載)、美しいキモノHP、知花花織事業協同組合HP、知花花織事業協同組合フェイスブック]						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	知花花織事業協同組合売上		目標	() (1,800万円)	()	()	()
			実績	3,202万円			
	【参考指標】		目標	() ()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	国の伝統的工芸品指定に伴う、帯や着尺、2次加工品等の受注件数増に加え、県外での展示販売会等を開催したことにより、目標を上回った。						

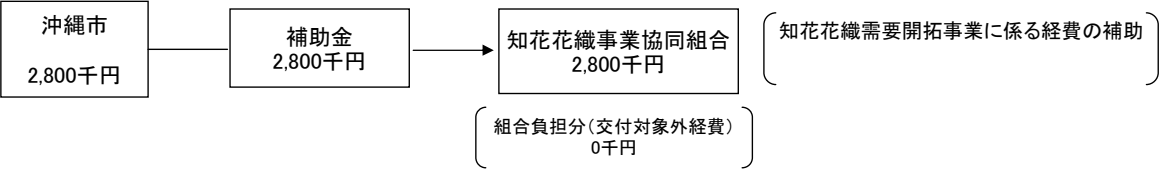
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今回の事業実施により、帯地や着尺への需要が予想以上にあり、卸問屋からの注文に対して、在庫不足や生産が追いついていないという点が課題となった。	知花花織需要開拓事業の更なる効果を高めるために、事業実施までの生産計画策定、技術力向上、織り手の育成等を進める必要がある。

今後の取り組み方針

知花花織事業協同組合で実施している技術力向上、生産体制の強化等を図る事業との連携を図り、需要拡大事業の効果をより高めていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,800	2,800	2,240	560	



資金の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助事業者は、企業組織、実績、知識等を勘察した上で、妥当であったと考えている。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		沖縄市					
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9	アグリビジネス推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-カ	
担当部署名	経済文化部 農林水産課	事業実施（予定）年度	平成24～26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	亜熱帯性気候等を生かした農林水産業の振興 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	農業生産および農業経営の安定化を図るため、台風等の自然災害に影響を受けにくい食用菊の栽培施設（強化型パイプハウス）の整備に対し、沖縄県農業協同組合へ支援を行った。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	52,652				
		(b) 予算現額	28,640				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 24,012				
		(d) 前年度繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	28,640				
	執行額	B. 執行済額	28,640				
		うち交付金充当額	22,912				
		次年度繰越額	0				
		執行率（%）(B/A)	100.0%				
予算の状況の説明	当初予算計上額、栽培施設整備30,476千円、農業用水施設実施設計等22,176千円、合計52,652千円。栽培施設入札後不用額▲1,836千円。農業用水施設実施設計等については、農業用水施設の貯水量等にて関係者と合意形成に至らず、予算未執行▲22,176千円となり、入札後不用額と予算未執行額の合計▲24,012千円の減額が生じる。予算執行に関しては、成果目標の達成状況及び予算未執行額の補正減額等にて、適正に執行されたものと思慮している。						
活動目標（指標）及び達成状況	H24活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	食用菊強化型パイプハウス設置農家戸数	目標	（ 設置農家戸数 5戸 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実績	設置農家戸数 5戸				
	食用菊強化型パイプハウス設置面積	目標	（ 設置面積 5,124㎡ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実績	設置面積 5,124㎡				
達成状況説明	食用菊強化型パイプハウス設置。 沖縄市北部の倉敷に、強化型パイプハウス(486型)を26棟設置した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H24成果目標（指標）		基準値 (23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (27年度)
	食用菊強化型パイプハウス設置農家戸数	目標	（ — ）	（ 農家戸数5戸 設置面積 5,124㎡ ）	（ ）	（ ）	（ 24年度と同じ ）
		実績		設置農家戸数5戸 設置面積 5,124㎡			
	【参考指標】 食用菊強化型パイプハウス設置後の食用菊の生産量	目標	（ 6.9t ）	（ — ）	（ ）	（ ）	（ 15.0t ）
		実績		—			
	進捗状況説明	台風等の自然災害に影響を受けにくい強化型パイプハウス設置により、安定供給出来る生産体制が整い、県内外へ新鮮で安心・安全な食用菊の出荷が可能となる。 また、安定出荷に伴い原材料の確保も安定し、食用菊の地産地消や食用菊を使用した地域特産加工品開発にも繋げていける。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>本市では市街地化が進んでおり、農業生産が第一歩となるアグリビジネス事業推進に向けては、限られた農地の有効活用と天候に左右されない栽培施設の導入による、安定した農産物の生産が不可欠である。</p> <p>今回の事業では、平成23年の台風で生産の危機に陥った県内唯一の地域特産品である食用菊の再生産を目的に、台風等の自然災害に影響を受けにくい栽培施設の整備を行い、既存の地域特産品の生産確保に向けての体制は整ったが、従前通りの出荷先の確保や販売及び県民への周知に向けた取組みをしていかなければならない。</p>	<p>本市では、限られた農地での農産物の生産となっており、今後とも農業生産によるアグリビジネス事業の推進に向けて、現地域特産品である食用菊と同様に、収益性のある、県内唯一の地域特産品と成り得る新たな品目を選定し、台風等の自然災害に影響を受けにくい栽培施設の導入にて、農産物の安定生産による安定供給が可能になるよう改善していきたい。</p>

今後の取り組み方針

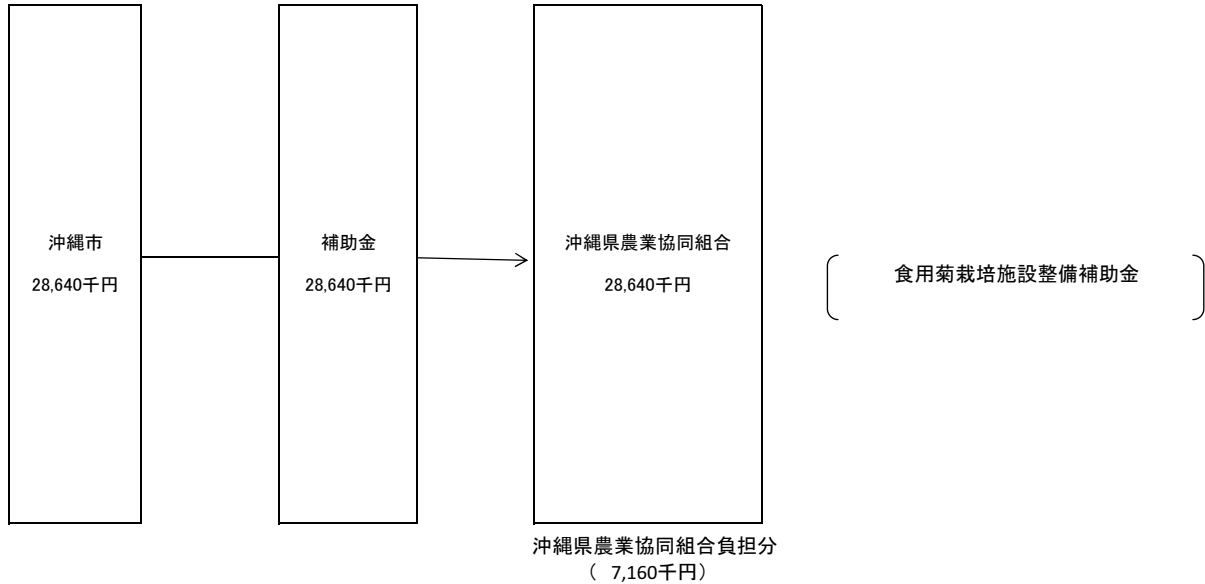
本市は、限られた農地を有効活用する都市型近郊農業を展開しており、都市化と農業の共存を図りながら、合理的で収益性が高く環境に配慮した農業に向けて取組み、食の安全や地産地消、癒しに結び付くような新規作物を導入し、その新規作物が県内唯一の地域特産品目となるように、農業関係機関の協力や農家の育成支援を行いながら、農業の振興によるアグリビジネス推進に向けて取り組んでいきたい。

現在、本市の花弁栽培は、小菊の栽培を中心に行われているが、東日本大震災後は単価の減少にて、小菊栽培のみによる農業経営が危惧され始めており、今後の経営安定化に向けた取組みとして、平成25年度は周辺環境にも配慮し、農業軽減可能な新規花卉品目の導入に向けた基盤整備を、平成24年度に実施した台風等の自然災害に影響を受けにくい栽培施設の導入により取り組んでいきたい。

そして、アグリビジネス事業にて導入された農産物については、地域の特産品として、農商工連携の促進による加工品開発に向けての取組で、高付加価値化に繋げていきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		
		交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
35,800	28,640	22,912	5,728	7,160



※事業実施後、事業主体の沖縄県農業協同組合より、5戸の農家へ栽培施設をリース。

資金の流 れの点 検・費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施主体である沖縄県農業協同組合の実績(流通・栽培技術指導・過去の事業導入)を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 事業計画通りの規模、内容となっており、適正に事業実施が行われたものと思慮している。 本市要綱に基づき補助金の交付を行っており、負担関係は妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

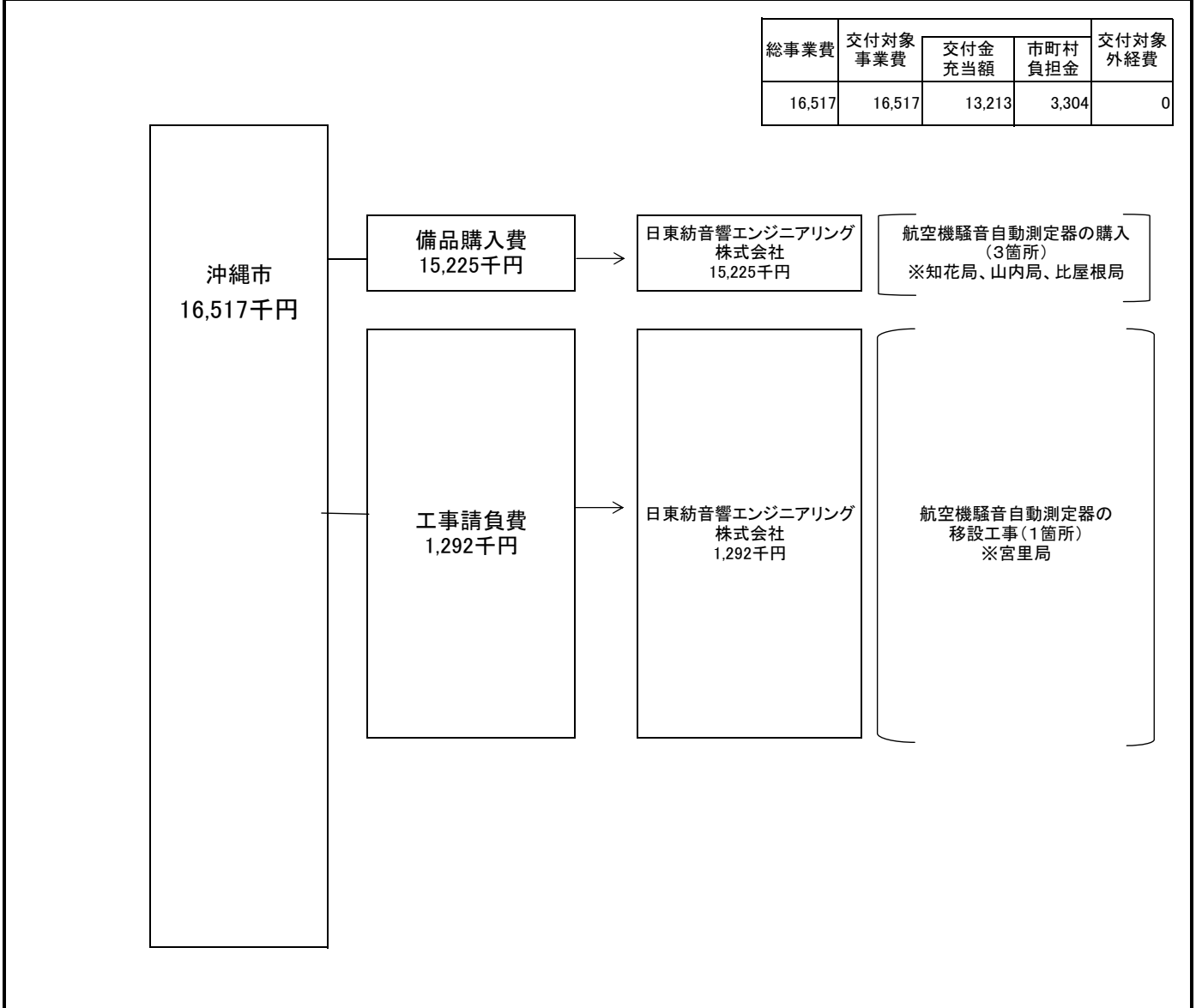
市町村名		沖縄市					
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	12-①	航空機騒音測定事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(5)-ア	
担当部署名	企画部 基地政策課	事業実施（予定）年度	平成24年度		沖縄振興基本方針該当箇所	米軍基地から派生する諸問題への対応 Ⅲ-12-(1)	
事業内容	平成25年4月1日から施行される「航空機騒音に係る環境基準」に対応した航空機騒音測定器を設置し、本市における航空機騒音の実態を把握を行った。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	12,996				
		(b) 予算現額	17,655				
		(c) 増減額 (b-a)	4,659				
		(d) 前年度繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	17,655				
	B. 執行済額		16,517				
	うち交付金充当額		13,213				
	次年度繰越額		0				
	執行率（%）(B/A)		93.6%				
予算の状況の説明		・不要額が1,138千円発生しており、主に予算と契約の差額であるが、航空機騒音自動測定器の4か所設置による活動目標及び成果目標の達成状況を鑑みて、適正であったと考えている。 ・(c)増減額については、本市全域の航空機騒音の実態把握を行うため、測定局を1局、追加したことによる増額である。					
活動目標（指標）及び達成状況	H24活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	航空機騒音自動測定器の設置	目標	（ 4箇所 ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実績	4箇所				
		目標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実績					
達成状況説明	既存の騒音測定器1基を移設し、新たな騒音測定器3基を設置した。 設置場所【知花局（北部）、山内局（西部）、宮里局（中央）、比屋根局（東部）】						
成果目標（指標）及び進捗状況	H24成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	航空機騒音自動測定器の設置	目標	（ 2箇所 ）	（ 4箇所 ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実績		4箇所			
	【参考指標】		目標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
			実績				
	進捗状況説明	航空機騒音自動測定器を4基設置することで、本市全域の航空機騒音実態が把握可能となった。 設置場所【知花局（北部）、山内局（西部）、宮里局（中央）、比屋根局（東部）】					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の活動及び成果目標である「航空機騒音自動測定器」の設置については、本市全域を網羅するよう設置を行った。 ・今後のステップとして、本市全域の航空機騒音の実態を把握し、現状分析が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の航空機騒音実態について、嘉手納飛行場のみならず普天間飛行場からの離発着機の実情も踏まえ、分析手法の検討が必要。

今後の取り組み方針

- ・本市全域の航空機騒音の実態を把握し、分析を行う。
- ・市民の健康保持の観点から、航空機騒音に関する環境基準を維持するため、沖縄県等と連携、調整等を含め、国及び米軍等に対し改善等について要請等を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、航空機騒音実態把握に対する技術、実績、対応力を勘案した上で選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、本市域を取り巻く航空機騒音被害の現状把握という事業内容に即した適正規模であると捉えている。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要最小限なものに限られており適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	